

このマーク(複十字)は、
世界共通の結核予防運動の
旗印です。

No.
383

2018.11

結核・肺疾患予防のための

複十字

国連総会ハイレベル会合報告 結核予防週間レポート



シールぼうや

シールちゃん

アジアと
世界の結核を
なくさなければ
日本の結核は
なくなる

本誌は複十字シール募金の
収益により作られています
<http://www.jatahq.org>



健康日本21



結核に関する国連総会ハイレベル会合

9月26日、ニューヨークの国際連合UN本部にて「結核に関する国連総会ハイレベル会合」が開催され、本会からは岡田国際部長と加藤結核研究所長が参加いたしました（報告は本誌p.2～3に掲載）。

現地の様子をご紹介します。



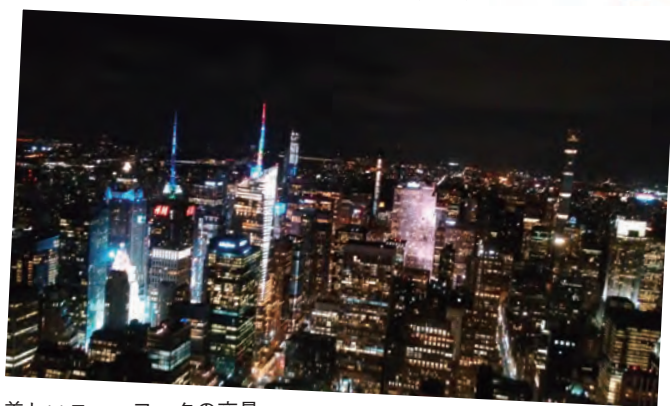
総会(左)及び
パネル会合(右)の会場風景



総会でスピーチを行う
加藤厚生労働大臣(当時)



ビルゲイツ氏による基調講演 (パネル会合)



美しいニューヨークの夜景



日経新聞社主催の
サイドイベント
(25日) の一コマ。
壇上にいるのは
加藤結核研究所長



五番街にあるトランプタワー。厳重な警備と共に大統領に
反対する市民グループのプラカードも見える



会場の国連本部と
周辺の様子



厚生労働省健康局長就任に当たって



厚生労働省健康局長

うつのみや おきひろ
宇都宮 啓

平成30年7月31日に健康局長を拝命しました宇都宮と申します。公益財団法人結核予防会を始めとした関係者の皆様には、日頃から結核対策の推進にご尽力いただき、心から感謝申し上げます。

平成29年度の我が国の結核罹患率（対人口10万人当たり）は、平成28年より0.6ポイント減少して13.3となりました。官民一体の取り組みが功を奏し、結核の罹患率及び患者数ともに減少を続けておりますが、結核は依然として我が国の主要な感染症であり、引き続き着実な対策が求められています。

近年の傾向として、かつて日本で結核が国民病であった時代に罹患し、高齢となってから免疫力が低下することによって発症するケースが多数を占めています。国内での結核の感染拡大を防止し、罹患率を低下させるためには、高齢者における結核患者を早期に発見するための方策を効率的・効果的に進める必要があ

り、高齢者に対して健康診断の受診を促しています。

また、国際化の進展により結核新規登録患者数に占める外国出生者の割合が増加していることから、入国前スクリーニングの導入に向けて準備を進めているところです。

厚生労働省といたしましては、従来からの、直接服薬確認療法（DOTS）の推進、結核医療費の公費負担及び予防接種の実施等を含めた総合的な対策につきましても、引き続き進めてまいります。

結核対策においては、結核予防会を始めとした関係者の皆様のご理解とご協力が不可欠です。今後とも格別のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆様のご健勝と今後ますますのご活躍をお祈りし、私の挨拶とさせていただきます。🐾

Contents

■メッセージ

厚生労働省健康局長就任のご挨拶 宇都宮 啓…… 1

■結核に関する国連総会ハイレベル会合

United Nations High-Level Meeting on the Fight to End Tuberculosis」に参加して 岡田 耕輔, 加藤 誠也…… 2

■結核予防週間レポート

- 2018結核予防週間レポート …… 4
- 結核予防週間支部・本部活動報告 …… 8

■平成30年度結核予防技術者地区別講習会実施報告

山田 昌志・木村 梨沙・深澤 健・西岡 美晴
・東出 理沙・中村 渚・山口明日香……11

■複十字シール運動

平成30年度都道府県知事表敬訪問報告 続報 ……14

■シリーズ 結核対策活動紹介

三重県桑名保健所における外国人を対象とした結核対策について 野口 昌靖……16

■教育の頁

高齢層における結核発症者の早期発見のための対策について 繁本 憲文……18

■世界の結核事情 (18)

～ Stop TB Partnership との覚書締結と Center on Global Health Architecture の取り組み～ 小柴 巖和……20

■世界の結核研究の動向 (9)

アメリカ胸部疾患学会 (ATS) 年次総会 森本 耕三……22

■国際研修「平成30年度 UHC 時代における結核制圧コース」に参加して

- 7週間の「国外で学ぶ」経験を生かし 高 亜男……24
- 将来進むべき道標 Ahmed Majid Ahmed AL-ISMEE……25

■思い出の人を偲んで

亀田和彦先生を偲んで-結核勉強会での学び- 吉田 留美……26

■ずいひつ

赤い靴ひもの会 (がん体験者山行サポートの会) 西田 耕造……28

■たばこ

タバコパッケージの健康警告を画像による国際標準に! ……31

▽予防会だより・シールだより

- 今年も清瀬市とブックカバーを作りました! ……15
- 「結核に関する国連総会ハイレベル会合」に向けた記者ブリーフィング開催 ……29
- 複十字シール運動大臣表敬訪問 ……29
- グローバルフェスタJAPAN 2018 「Action for all ～小さなことから変わる明日へ～」 ……30
- 地域創生ビジネス交流会2018に出展 ……30

〔表紙〕苔庭に散る紅葉とお地藏さん
静寂の西日が穏やかに照らす苔むした庭園で、お地藏さんがやさしく微笑んでいます。

撮影地：詩仙堂 丈山寺 / 撮影者：堀川春男氏

結核に関する国連総会ハイレベル会合 United Nations High-Level Meeting on the Fight to End Tuberculosisに参加して

結核予防会国際部部长 岡田 耕輔
結核研究所所長 加藤 誠也



9月26日結核に関する国連ハイレベル会合開会式の一コマ。
中央が第73回国連総会議長エクアドル出身のエスピノサ女史。

9月26日、ニューヨークにある国際連合UN本部にて開催された「結核に関する国連総会ハイレベル会合」を傍聴する機会が与えられたので報告する。ハイレベル会合においてこれまで保健課題としては、エイズ、生活習慣病、エボラなどが議題とされたが、今回初めて結核が取り上げられた。その背景には、薬剤耐性菌、取り分け治療困難な多剤耐性結核への懸念や、結核がエイズを抜いて単一の感染症として死因第1位になったことへの対策強化の必要性などがあるものと思われる。この会議の目的は、結核対策に関する政治宣言（Political Declaration on the Fight against Tuberculosis）を総会で承認し、首脳級会合を通じて結核に関する多分野での包括的な取り組みを推進することにある。

改めて、ここに至る一連の経緯について振り返ってみると、近年の世界レベルでの結核政策が、保健分野だけでなく社会保障、貧困対策、財政課題等と関連しつつ一貫性をもって取り扱われてきたことが分かる。すなわち、2014年WHOによる結核終息戦略の策定、2015年UNによる持続開発目標SDGsの合意、2015年

G7主要国首脳会議における薬剤耐性菌の問題提起、2016年国連総会にて2年後に結核が取り上げられることが決定、2017年モスクワにおける結核終息に関する閣僚級会合の開催等である。今回の会合に先立ち、6月4日には国連にて市民社会を巻き込んだヒアリングが行われ、筆者の加藤は日本の経験に基づき意見を述べた（本誌381号）。今回の会合では、モスクワ会合で話し合われた多分野の説明責任枠組み（Multisectoral Accountability Framework）を首脳級会議により具体的なものにする狙いがある。「結核終息のための団結：世界流行に対する地球規模の緊急対応 United to End Tuberculosis: An Urgent Global Response to a Global Epidemic」と題された政治宣言は、共同議長を務めることとなったアンティグア・バブーダのウェブソン大使と日本の別所大使により草稿された（<https://www.un.org/pga/72/wp-content/uploads/sites/51/2018/07/TB.pdf>からダウンロード可能）。

ニュースでも報道された通り、第73回国連総会は9月24日～10月1日にかけて開催された。この期間中は各国の首脳や大臣級代表が一堂に会し、優先課題を発表するとともに、様々なグローバルな主要課題をめぐり意見交換を行った。結核会合は同時並行的に実施される多くの会議の一つに過ぎない。我々のような一般参加者は事前申し込みはもちろん、会合前日に入館票の配布、当日は国連本部から1ブロック離れた場所に集合しパスポートをチェックの上、国連職員に付き添われての入館となった。結核会合は「総会」と「多分野パネル」との二つが別々の部屋で行われ、しかも、参加者は相互の部屋の行き来は許されていない。そのため、「総会」には岡田、「パネル会合」には加藤が出席した。

総会冒頭で、国連総会議長エスピノサ女史が政治

宣言文の承認を宣言した。彼女は、2017年には一年間で160万人が死亡しており、多剤耐性結核MDR-TBを含む結核対策全体が不十分であるとの認識を示した。結核による経済損失は2030年までで1兆ドルに上るといふ。一方で、彼女は、結核対策は保健システム強化及び各分野の協調強化の好機であること、社会的弱者のエンパワー・医療アクセス改善の必要性、研究開発推進の必要性の三点を指摘した。さらに、2022年までに4千万人に治療、3千万人に予防的治療を提供するために年間130億ドルの資金と20億ドルの研究開発費が必要で、結核終息に向けて各国が言葉を行動に移し、政治宣言文のコミットメントを実行するよう要請した。午前中には25カ国、午後には40カ国もの首脳や大臣級の代表が宣言文への支援を表明し、自国の取り組みなどについてスピーチをした。日本の加藤厚生労働大臣も、結核死亡率を短期間で急速に改善したUHCを含む日本の取り組み、世界の結核対策への貢献、今後開催される一連の国際会議を通じた今回の政治宣言の成果の注視などについて発言した。

パネル会合では、各国や団体の代表が政治宣言に沿った内容をそれぞれの立場で発言した。基調講演で、結核対策に多額の資金を提供しているビルゲイツ&メリンダ財団のビルゲイツは、発見されていない患者やワクチン・新薬・診断薬等に言及しながら同財団の活動について述べた。続くパネルリストは、まず、ユニセフの代表が小児結核対策の重要性を強調した。BRAC（バングラディッシュのNGO）の代表は、技術革新とその供給機構及びNGOの役割について述べた。国際結核胸部疾患連合の会頭は予防対策の革新、対策実施の要求、新たなパートナーを取り込む必要性を訴えた。ベトナムの市民団体の代表は市民社会の役割について発言した。

午後の基調講演はUNAIDS 特別大使及びStop TB

Partnership 特別大使であるナイジェリアの大統領夫人が行い、患者発見の強化、政治的な関与の必要性、資源の導入や効果的なパートナーシップについて述べた。続くパネルリストは、世界銀行が貧困対策や人的資源、自国資金の確保のための税制について言及した。グローバルファンドは対策を進めるために、モラル・経済・健康危機の議論の必要性と資金確保について述べた。航空税を原資として資金提供を行っているUnitaidは技術革新のための実施してきた事業について発言した。世界の国会議員の集まりであるGlobal TB Caucusの代表はこの会議での約束をどのように活動や資金確保につなげるか、また、説明責任の機構について述べた。パネルリストに続いて、午前は19、午後は17の国及び関係団体の代表が2分間の発言をした。ここでは各国の対策の現状や実施している対策あるいは国際協力事業等についての発言があった。

以上のように、本ハイレベル会合では、政治宣言が採択され、各国・関係団体がそれを支持する発言を行うことで会合の目的を達成し、無事終了した。

なお、ハイレベル会合の前日の夜、ニューヨークの日本クラブにおいて、日本経済新聞社主催（結核予防会も共催）のサイドイベントが開催された。ここでは技術革新をテーマに、WHO、Stop TB Partnership、Global Fund、結核研究所、国境なき医師団、インド及びフィリピンの代表、USAID、JICA、GHIT、TB Allianceが5分～7分の発表と質疑応答を行い、最後に武見敬三参議院議員が閉会の言葉を述べた。懇親会では日本の研究者や先進的な技術開発を行った日本企業が、それぞれの研究や製品の紹介を行った。世界各国から100人余りが参加したが、短い時間ながら充実した内容であったと好評を得た。🍷

✳️2018結核予防週間レポート✳️

今年も9月24日から30日までの結核予防週間を中心に、「全国一斉複十字シール運動キャンペーン」が実施され、全国各支部で工夫を凝らした活動が行われました。その活動の一部を紹介いたします。

埼玉



大宮駅前と川越駅前において、シールぼうやと埼玉県マスコット「コバトン」とともにポケットティッシュや複十字シールを配布し、結核予防を呼びかけながら募金活動を実施した。

千葉



千葉そごう前広場とJR千葉駅東口にて、広報資材の配布とともに募金の協力を呼びかけた。ママさんプラスバンドの皆様の演奏や、千葉県マスコット、マスコット「けんしー」とともに結核予防の大切さを広めました。

東京



秋葉原UDXサボニウス広場で、のぼりを立て広報資材を通行人へ配布してPRを行った。東京都と共催し、健康診断を受ける機会の少ない若者を対象に無料結核検診を行い結核予防週間を周知した。

神奈川



小田急線本厚木駅にて、広報資材を配布する街頭キャンペーンを行った。シール運動と予防週間のポスターを設置することで、運動内容を分かりやすく示した。

新潟



すこやかともしびまつり2018に参加し、広報資材を配布。肺年齢測定を実施し、肺疾患予防について意識を高めてもらうと共に、結核について正しい知識を深めてもらうよう呼びかけた。

富山



富山市総曲輪グランドプラザ付近にて広報資材を配布し、結核予防を呼びかけた。バルーンパフォーマンスによる路上パフォーマンスを行い、お子様連れの家族にPRを図った。

福井



ラブリーパートナーエルパにて、結核の常識、複十字シール運動リーフレット、ポケットティッシュ、「その思いこみが結核の発見を遅らせています」チラシ・複十字シールを配布を行った。

山梨



JR甲府駅にて、ティッシュとカットパンをセットにして通勤、通学の方々を中心に約3,000部配布した。県健康増進課感染症担当並びに婦人会の方々のご参加をいただき、活発な街頭キャンペーンを展開することができた。

岐 阜



ショッピングセンターマーサ21にて結核の常識、複十字シール運動リーフレット、啓発資料等を配布。ぎふ清流文化プラザでも、来場者に向けてパネル展示や普及広報資料を配布した。

静 岡



アピタ静岡店にて駿河区公認ゆるキャラの「トロペー」と一緒に啓発活動を実施。結核の常識、複十字シール運動リーフレット、ポケットティッシュ、絆創膏、お子様には風船を配布し、結核パネル展示を実施した。

愛 知



あいち健康プラザにて街頭キャンペーンを実施し、リーフレット始め4点300セットを配布した。

滋 賀



イオンモール草津内で結核予防啓発の呼びかけとともに資材の配布、結核パネル展示等を行った。子どもさん向けに滋賀県の健康づくりキャラクター「しがのハグ&クミちゃん」とのじゃんけんコーナーを設け、楽しくふれあっていたることができた。

京 都



京都駅前中央改札口広場、京都タワー付近にて京都府広報監「まゆまる」とともに、複十字シール運動リーフレット、シール、マスク、ティッシュを配布して普及啓発活動を実施した。

大 阪



JR天王寺駅にて当会職員と大阪市地域女性団体協議会会員とシールぼうやが、結核予防啓発グッズを配布し、結核予防の普及啓発及び複十字シール募金の協力を呼びかけた。

兵 庫



JR 姫路駅にて、街頭活動を実施。ティッシュ、風船、神戸市提供のマスク等普及啓発資材の配布、のぼりやシールぼうやの人形、ポスターを活用しながら募金を呼びかけた。

奈 良



奈良県庁内、各保健所、奈良県健康を守る婦人の会各支部でシールぼうやのシール、ティッシュ等を配布して募金活動を実施し、普及啓発を行った。

和歌山



JR 和歌山駅前・南海和歌山市駅前にて、「結核の常識 2018」、複十字シール運動パンフレット、あぶらとり紙&啓発ティッシュをセットにして配布。結核予防の普及啓発を行った。

鳥取



バードハットで複十字シール、リーフレット、絆創膏等を配布した。平井知事に壇上でPRしていただき、知事夫人にはじゃんじゃん傘踊りを披露いただき募金活動をPRした。

岡山



JR 岡山駅地下もたらう観光センター前広場にて、複十字シール運動リーフレットを入れたポケットティッシュやクリアファイル等を配布しながら普及啓発を実施し、併せて募金協力の呼びかけも行った。

広島



結核及びがんに関するポスター・パネルを展示するとともに、結核の常識を希望者に配布。複十字シール運動ポスターを掲示し、結核への理解と募金活動への普及啓発を行った。

徳島



あわぎんホールで「健康を考える県民のつどい」を開催し、徳島県、徳島県婦人団体連合会の協力を得て、リーフレット、結核の常識 2018 を配布するとともに募金活動を実施した。

香川



ゆめタウン高松で香川県婦人団体連絡協議会と協力し、ポケットティッシュや啓発資材を配布した。複十字シール運動のパネルを展示し、来場者に運動について知っていただくことが出来た。

愛媛



松山市いよつ高島屋前北側歩道（松山市駅北口）付近にてポケットティッシュ、リーフレット、小型シール、カレンダー、風船を配布し、募金者にはクジ引きにて複十字シール運動の啓発グッズをプレゼントした。

高知



高知県支部にて無料検診を実施。結核の常識、がんについてのパンフレット等を配布し、早期発見、早期治療を呼びかけました。

福岡



エルガーラ・バサージュ広場にて、婦人会との共催によりミニ講演やパネル展示、普及啓発資料の配布を行い、結核予防の普及啓発に努めた。併せて健康相談、血圧・体脂肪・肺年齢・骨密度測定、胸部レントゲン健診、募金活動などを実施し、多くの方々にお立ち寄りいただいた。

佐賀



支部職員と県婦人会、県庁職員の合同で県内ショッピングセンター2カ所（イオン佐賀大和店・ゆめタウン佐賀）で無料血圧測定やパンフレット、複十字シール、ティッシュ、風船等を配布しながら募金の呼びかけを行った。

長崎



浜の町ベルナード観光通り他1カ所にて、長崎市、佐世保市、婦人会の協力を得て、結核の基礎知識パネル展示や結核の常識、リーフレット、マスク等を配布して普及啓発を行った。

熊本



熊本市動植物園にて、うちわ、ポストカード等の啓発資材を配布。熊本県健康を守る婦人の会熊本支部との募金活動、保健師による健康相談、無料結核検診、イベントステージを実施した。

大分



トキハ本店前及び中央商店街において、結核予防婦人会、県、大分市保健所と街頭啓発活動を行い、結核検診の重要性を呼びかけるとともに、シール、リーフレット、ポケットカレンダーを配布して、募金活動を実施した。

宮崎



「若草街市」他2カ所にて、結核の常識、がん検診のリーフレット、グッズを配布した。また、新聞への広告掲載やケーブルテレビでの紹介を行い、広く普及啓発を行った。

鹿児島



鹿児島中央駅構内コンコースにおいて、鹿児島県及び鹿児島県結核成人病予防婦人会に協力いただき、複十字シール運動の周知を図るとともに運動への理解と協力を呼びかけた。

本部



グローバルフェスタ JAPAN2018 に出展し、ポスターやパネルの展示、パンフレット、ポケットティッシュ、過去の複十字シール等の配布を行い、募金を呼び掛けるとともに広く普及啓発を行った。

支部・本部活動報告

都道府県	日付	開催数	係員合計	資材点数・セット数	報告〔1)場所・2)活動内容・3)その他〕
北海道	9/1～2, 9/25～10/2, 9/28	4カ所	70 (うち婦人団体30名)	6点 1,500セット	1)札幌市北区(1カ所)・中央区(1カ所)・厚岸町, 白糠町 2)複十字シール小型, リーフレット, 結核の常識, マスク, カットパン, COPD啓発リーフレット 3)その他 ①夜間無料結核検診&COPD予防普及啓発キャンペーンを実施(札幌市保健所と共催) 検査内容:問診・血圧・胸部レントゲン受診数:16名 無料肺年齢測定受診数:17名 ②結核予防パネル展の開催 同会場にて無料肺年齢測定を実施受診数:85名(2日間合計)
青森	9/22	3カ所	37 (うち婦人会11名)	6点 1,700セット	1)青森市内のショッピングセンター3会場実施 2)広報資材(結核の常識2018, 複十字シール運動リーフレット, 2018年度小型シール, がん検診のご案内リーフレット, COPDパンフレット, ポケットティッシュ)を支部職員と結核予防婦人会員が資材を手つき袋に入れて配布し, 子供には風船とシールぼうやのシールを配布した。(風船は2会場ヘリウム風船を使用し, 1会場は棒付き風船で配布) また, シールぼうやの着ぐるみが3会場を回り, 大いに会場を盛り上げ, 結核予防の普及啓発活動を行った。 募金活動の様子は, 地元テレビ局1社, 新聞社1社で放映・報道された。
岩手	10/6	1カ所	2	6点 120セット	1)岩手県予防医学協会主催「よぼういづく協会健康フェスタ2018」 2)結核の常識2018, 複十字シール運動リーフレット, 複十字シール, シールぼうやカットパン, シールちゃんメモ帳, シールぼうや風船を配布し, 募金を呼びかけた。またポスターを設置し, 啓発活動をした。
宮城	9/22	1カ所	18 (うち婦人会8名)	4点 700セット	1)仙台駅西口ペデストリアンデッキ 2)支部10名, 宮婦連健康を守る母の会8名で, 「結核の常識」, 「リーフレット」, 「支部作成ちらし」, 「ティッシュ」4点セットの広報資材を配布した。当日, 新聞社の取材があり, 25日の朝刊に記事の掲載された。 3)9月22日(土)～30日(日)の9日間, AMラジオで結核の現状等を伝えるCMを流した。
秋田	9/22	1カ所	35 (うち婦人会22名)	5点 500セット	1)秋田駅東西連絡自由通路「ばぼろ〜」・秋田駅前小路(大屋根下)にて実施。 2)リーフレット(結核の常識・複十字シール運動)・ミニクリアファイル・カットパン・ティッシュをビニール袋にセットしたものを配布。 秋田駅東西連絡通路「ばぼろ〜」から秋田駅前小路(大屋根下)にかけて, キャンペーンののぼりを設置。会場内にパネル2枚を設置し, キャンペーンの趣旨やポスター, パンフレットを掲示。 支部職員と婦人会員が4グループに分かれ, 募金活動を実施。ハンドマイクを使い複十字シール運動へのご協力を訴えた。秋田県のマスコット「んだッチ」と一緒に記念撮影を行い, ボラロイド写真や風船をプレゼントし, 好評だった。
山形	9/22～23	1カ所	14	8点 1,000セット	1)やまがた健康フェア2018(山形国際交流プラザ) 2)9/22(土), 9/23(日)に開催されたやまがた健康フェア2018へ参画し, 疾病に関する普及啓発を図った。「結核の常識2018」等パンフレット・がん検診リーフレット・クリアファイル・ポケットティッシュ・ボールペン等を配布した。 3)乳がん・子宮がん検診の無料クーポン券配布, 無料骨密度測定を実施し, 受診勧奨を行った。
福島	①10/12, ②10/14	3カ所	20	4点 2,200セット	①1)いわき市主催「結核予防街頭キャンペーン」【会場:小名浜市民会館】 2)敬老会参加者等へ核予防パンフレットや啓発グッズを配布し, のぼりや横断幕を活用しながら普及啓発を行った。 ②1)福島市主催「健康フェスタ2018」【会場:AOZ(アオウゼ)】および福島県医師会主催「健康づくりフェスティバル」【会場:福島県医師会館】 2)無料でスモーカーライザー測定, 血圧測定, 体脂肪測定, 骨密度測定等を行い, 来場者に結核予防のパンフレットや啓発グッズを配布し, 結核に関する情報を発信していくと共に複十字シール運動への募金協力を呼びかけた。
茨城	9/1～9/30	3カ所	30	3点 1,600セット	①街頭キャンペーンの実施 茨城県, 保健所及び茨城県健康をまもる女性団体連絡会とともにパンフレット(結核の常識, 複十字シール運動)等を配布し, 結核予防を呼び掛けた。 ・9/25(火)イオンモール水戸内原(水戸市)600セット ・9/26(水)道の駅いたこ(潮来市)500セット ・9/28(金)イースつくば(つくば市)500セット ②結核予防ポスター及びパンフレットの配布 茨城県, 市町村, 医師会等の関係団体のほか, 県内の学校(小・中学校, 高等学校, 専門学校, 大学)に結核予防ポスターとパンフレットを配布した。 ポスター1,100枚, パンフレット8,000部。 ③結核予防ポスターの掲示 つくばエクスプレスつくば駅の南北自由通路掲示板・支柱に結核予防ポスターを掲示(9月中)し, 告知を行った。
栃木	①9/29, ②9/24, ③9/24～28, ④9/3～26, ⑤9/1～30	①1カ所	①14(うち婦人会5名)	①1点 415セット	①1)宇都宮市内のショッピングモール「ベルモール」2Fスカイブリッジ広場 2)街頭キャンペーンを実施し, 資材セット(リーフレット, 小型シール, シールぼうやのボールペン, カットパン, ウェットティッシュ, 募金案内, 募金振込用紙)を配布。併せて, 結核に関するパネルの展示, シールぼうややパンチングボールの設置, 複十字風船の配布, バルーンアートの配布を行った。 ②地元新聞紙「下野新聞」1面の突出し部分にフルカラーで結核予防週間の告知を掲載した。 ③地元テレビ「とちぎテレビ」にて結核予防週間及び結核予防に関する告知を製作・放送した。 ④地元FMラジオ「エフエム栃木(RADIOBERRY76.4FM)」にて結核予防週間及び結核予防に関する告知を製作・放送した。 ⑤1)栃木県, 栃木県警及び県内の市町, 教育機関, 医療機関, 企業等に結核予防週間のポスター及びパンフレットを配布し, 掲示・配布いただいた。 2)栃木県の健康増進施設である「とちぎ健康の森」エントランスに結核予防週間のポスターを掲示するとともに, パンフレットを設置・配布した。
群馬	6/23	1カ所	2 (婦人会, 支部)	5点 200セット	1)群馬会館 2)リーフレット(結核の常識), 小型シール, ハガキ, ボールペン, 封筒組合せを配布。 その他)結核予防週間前に新聞広告を2紙(朝日新聞群馬版, 上毛新聞)に掲載した。
埼玉	9/1～30	4カ所	52	5点 4,000セット	街頭募金活動:9月24日(月・休) 1)場所:午前JR大宮駅(西口), 午後JR川越駅(東口)において, 行政機関職員や婦人団体委員の協力を得て, 結核の撲滅及び複十字シール募金への協力を呼びかけた。 2)配布資材:「支部製作のポケットティッシュ」, 「複十字シール運動リーフレット」, 「小型シール」, その他2点を1セットにして配布。 ◆懸垂幕の掲出:9月14日～30日 埼玉県庁本庁舎に, 結核予防週間に係る懸垂幕を掲出し, 県民等へ結核の予防を呼びかけた。 ◆横断幕の掲出:9月14日～30日 当支部(埼玉県衛生研究所)フェンスに, 結核予防週間に係る横断幕を掲出し, 受診者や来訪者, 通行者等へ結核の予防を呼びかけた。 ◆ポスターの掲示 県内医療機関, 市町村, 保健所, 教育委員会等に結核予防週間ポスターを掲示していただき, 広く県民等に結核の予防を呼びかけた。
千葉	9/29	1カ所	46	5点 1,463セット	1)千葉そごう前広場 2)広報資材の配布とともに募金の協力を呼びかけた。看板や垂れ幕を設置しキャンペーンの概要を多くの方にご理解いただいた。毎年ご協力いただいているママさんプラスバンド「i-Brass」の皆さまの演奏や, 千葉県のマスコットキャラクター「チーバくん」, 当財団マスコットキャラクター「けんしー」と共に, 結核予防の大切さを広めた。
東京	①9/24, ②9/15～16	2カ所	①19	4点 1,500セット	①1)秋葉原UDXサボニウス広場 2)本部・支部・東京都・婦人会の合同で, のぼりを立てボールペン, 風船, 複十字リーフレット, 長引く咳は赤信号(小冊子)をセットしてシールぼうやと共に通行人へ配布し普及活動を行った。併せて東京都の事業(健康診断を受ける機会のない若者を対象とした無料結核検診)と共催し, 検査結果の即時判定が可能な胸部X線率(医師が同乗)を配置して検診を行い, 結核予防週間の周知を行った。 ②1)都立東久留米高校 2)同校の文化祭である「しらすぎ祭」において, シール運動の意義やどのように役立てられているかを学ばれたうえで, 養護教諭と保健委員の皆さんが中心となり, 募金箱を持って校内を回り, シールぼうやの着ぐるみ・リーフレット・グッズを活用して, 結核予防の呼びかけや募金運動を実施していただいた。「しらすぎ祭」は大盛況に終わり, 30,690円の募金に協力いただいた。
神奈川	①9/22, ②10/20	①1カ所 ②1カ所	①31(うち県婦連17名), ②9(うち県婦連4名)	①5点 500セット ②5点 300セット	①1)小田急線本厚木駅前(活動時間10:00～11:00) 2)広報資材(結核の常識2018, 複十字シール運動募金リーフレット, ゆうちょ銀行払込依頼票, シールぼうや絆創膏, 複十字シール(過去品から選択)2枚)を袋に入れ, 街頭で通行人に配布。募金者には, 複十字シール(小), 複十字シール(大), 封筒セット, シールぼうやボールペンの中から, 好きなものを選んでもらい渡した。 3)複十字シール運動ポスター, 結核予防週間ポスターをフレームに入れ, イーゼル式の台に乗せ, 本厚木駅前3箇所今年度から設置。運動内容が分かりやすくなった。募金額は22,222円であった。 ②1)ウェルネスさがみはら(相模原市保健所) 2)「さがみはら健康フェスタ2018」に参加し, 広報資材(内容は①と同様)を袋に入れ, 来場者に配布。天気に恵まれたこともあり出足好調の来場となった。募金者には, 広報グッズ(①と同様)の中から, 好きなものを選んでもらい渡した。 3)昨年まで行っていた子供向けのバルーンアートは中止としたが, シールぼうやや風船で飾ったブースは彩豊かで, バルーンアートとは違った人気で小さなお子さんが風船を持って帰ってくれた。募金額は3,012円であった。

都道府県	日付	開催数	係員合計	資材点数・セット数	報告〔1)場所・2)活動内容・3)その他〕
山梨	①9/25, ②9/29	2カ所	①16 ②4	①2点 3,000セット ②6点 500セット	①1) 甲府駅前広場(7:40~8:30) 2) [STOP! 結核]のロゴを印刷した事業用ティッシュと複十字シールのカットパンをセットにして通勤、通学の方を中心に約3,000部配布した。当日は、県健康増進課感染症担当並びに婦人会(県愛育連合会・県連合婦人会)の方々にご参加をいただき、結核予防週間の告知、結核予防の啓発等活発な街頭キャンペーンを展開することができた。 3) 街頭キャンペーンの模様は県内報道機関であるUTYテレビ山梨の取材のもと、夕方の県内ニュースで活動の映像等が報道された。 ②1) 小瀬スポーツ公園(9:00~13:00) 2) 配布資材: 結核予防週間告知カットパン(9月24日~30日は「結核予防週間」です。)、事業用ティッシュ(「STOP! 結核」を印刷)、花の種、結核の常識2018、結核予防会作成カットパン(シールぼうや印刷)、結核予防会作成メモ帳、シールぼうやボールペン(募金者に配布) 「いきいき山梨ねりんピック」に出展し、当日の来場者に向け結核予防週間の告知と結核予防を呼びかけた。当日は台風の影響により雨模様となり、参加者が例年よりもやや少ないイベントとなったが、ブースに来展していただいた方は結核に対する関心も高く、活発な普及啓発活動と結核予防週間の告知ができた。また、若いファミリー層に対しての普及啓発も併せて行うことができた。
新潟	9/29	1カ所	6	3点 300セット	1) 長岡市アオーレ長岡、すこやかともしびまつり2018 2) 結核の常識2018パンフレット、複十字シール募金パンフレット、シールぼうや風船、複十字シール(小型)の配布。肺年齢測定を実施し、肺疾患予防について意識を高めてもらうと共に、結核について正しい知識を深めてもらうよう呼びかけを行った。
長野	①9/1~30, ②9/5, ③9/25, ④9/23, ⑤8/30,9/2, 9/13,9/16	①6カ所 ②1カ所 ③1カ所 ④1カ所 ⑤1カ所	②4 ③7	-	① I JR長野駅ホーム(階段脇ステッカー、階段ステップ広告の掲示) II JR松本駅、塩尻駅、上諏訪駅、茅野駅(J・ADビジョンの実施) III 支店検診車への車体広告 ②1) 信州スカイパーク(信州婦人健康のついで)での募金活動 2) ポケットティッシュ、ポケットカレンダー、カットパン、リーフレット、複十字シール(350セット)、ボールペン、トートバッグ、複十字シール(募金者) ③1) 長野駅周辺 2) ポケットティッシュ(1,000点) ④ 信濃毎日新聞長野県全県版全面広告 ⑤ 毎日新聞長野県版広告
富山	9/22	1カ所	17 (うち婦人会12名、パフォーマ1名)	4点 500セット	1) 富山市総曲輪グランドプラザ付近 2) 結核の常識2018・複十字シール、クリアファイル、およびボールペンを配布し、結核予防を呼びかけた。 3) パルーンパフォーマによる路上パフォーマンスをし、お子様連れの家族にPRを図った。
石川	9/23	1カ所	9	3点 500セット	複十字シール運動のリーフレット・結核の常識2018・小型複十字シールを配布した。
福井	9/24	1カ所	17	5点 1,500セット	1) ラブリーパートナーエルバ 2) 結核の常識2018、複十字運動リーフレット、ポケットティッシュ、「その思いこみが結核の発見を遅らせています」チラシ、複十字シールを配布。
静岡	9/24	1カ所	15	4点 1,200セット	1) アビタ静岡店 2) 結核の常識・複十字シール運動リーフレット・ポケットティッシュ・絆創膏をセットにし配布。結核パネルの展示、お子様には風船を配布。静岡市駿河区公認ゆるキャラの「トロボー」と一緒に啓発活動を実施した。
愛知	①9/15~16, ②9/24~30	2カ所	8	4点 300セット	① あいち健康プラザにて、街頭キャンペーンを実施した。リーフレット始め4点300セットを配布した。 ② 昭和区永金町事務所にて、懸垂幕2枚を掲示して普及啓発を図った。
岐阜	①9/27, ②9/26・28, ③9/25~30, ④9/25~30, ⑤9/24~30	①1カ所 ②1カ所 ③1カ所 ④1カ所 ⑤1カ所	①6 ②2	①4点 300セット ②4点 100セット ④5点 100セット	①1) ショッピングセンター「マーズ21」 2) パンフレット「結核の常識2018」、リーフレット「複十字シール運動」、振込用紙、啓発物品(ボールペン)をセットにし配布。 ②1) ぎふ清流文化プラザ1Fロビー 2) パンフレット「結核の常識2018」、リーフレット「複十字シール運動」、振込用紙、啓発物品(ボールペン)をセットにし、施設を訪れる方に配布。 ③1) ぎふ清流文化プラザ階段(1-2F、2-3F) 2) 施設を訪れる方に向けて、に結核予防パネルを展示し普及啓発を行った。 ④1) ぎふ清流文化プラザ1F「みなたん」(子育て支援スペース) 2) パンフレット「結核の常識2018」、リーフレット「複十字シール運動」、振込用紙、啓発物品(絆創膏)、風船2個をセットにし配布。 ⑤1) OKBふれあい会館2F県民ギャラリー 2) 施設を訪れる方に向けて、結核予防パネルを展示し普及啓発を行った。
三重	①9/19・23, ②9/25~28	②1カ所	②2	②3点 200セット	①9月19日及び23日に三重テレビ放送において、結核予防を呼びかけるテレビCMを放映した。 ②1) 県庁1階県民ホール 2) 結核予防の普及啓発を図るため、ポスターの掲示やリーフレットの配布を行った。 ③県、市町、医療機関、小中学校などに結核予防ポスター、リーフレットを配付して普及啓発を行った。
滋賀	①9/19, ②9/22, ③8/17~9/30	①1カ所 ②1カ所 ③3カ所	①6 ②13	①470セット ②700セット	①1) JR石山駅 2) 支部長及び支店職員により啓発資材セット(結核の常識2018、複十字シール運動リーフレット、結核予防啓発マスク)の配布とともに結核予防週間の呼びかけや募金活動を実施した。 ②1) イオンモール草津1Fレストランコート 2) 「結核予防週間」複十字シール運動ののぼり旗を立て、啓発資材セット(結核の常識2018、複十字シール運動リーフレット、結核予防啓発マスク)の配布と結核予防週間の周知、無料肺機能測定及び健康相談の実施や結核の基礎知識パネルの展示を通じて結核予防の啓発を行った。また、子どもさん向けに滋賀県の健康づくりキャラクター「しがのハグ&クミちゃん」とのじゃんけんコーナーを設け、楽しくふれあっていたことができた。 ③1) JR草津駅、栗東駅、手原駅各構内 2) 各構内において地元商工会議所が設置されているデジタルサイネージ広告を活用し、結核予防に関する啓発を実施した。
京都	9/26	2カ所	60	4点 2,000セット	1) 京都駅前中央改札口広場/京都タワー付近 2) 複十字運動リーフレット(本部作成)・複十字シール(小型)・マスク(京都府作成)・ティッシュ(京都市作成) ③1) 京都府民・市民を対象に講演「結核の予防とがんを考えるついで」を開催(9/11) 講演Ⅰ「肺結核ってどんな病気?~結核への正しい対処は、正しい知識から~」 講師 独立行政法人国立病院機構南京都府呼吸器内科医長 角謙介先生 講演Ⅱ「肺がん薬物療法の最新情報!~個別化医療と免疫療法~」 講師 京都大学大学院医学研究科呼吸器内科学助教 小笹裕晃先生 ② 京都市地下鉄の中吊り・市バスに結核予防週間・シール募金のポスターの掲示 建物内及び検診車に結核のポスターを掲示し、結核予防週間の周知及び結核検診の受診を呼びかける。
大阪	①②9/26, ③9/28, ④8/18/27/9/6, ⑤9/28	5カ所	55	8点	①1) 「2018年度結核予防推進大会」(守口市生涯学習情報センタームープ21) 2) 配布物5点(結核の常識2018:240部・エコバッグ:240個・ポケットティッシュ:480個・うちわ:240枚・メモ帳:240個)内容:<結核のない街、大阪をめざして>と題して、当法人と(一社)大阪エイフボランタリーネットワークとの共催で、府内地区女性と大阪府内一般住民を対象に開催。シールぼうやが受付や会場内で出迎える。 ・ 研修報告:大阪エイフ会員「結核予防関係団体中央講習会に出産して」 ・ ミニ講話:大阪府守口保健所松本一美所長「保健所からの発信」 ・ レクチャー:当法人増田副理事長「高齢者の結核対策」(参加者:237名) ②1) 「肺年齢測定体験会」(守口市生涯学習情報センタームープ21) 2) 配布物4点(COPDパンフレット2種:53部・ポケットティッシュ:53個・うちわ:53枚・タオル:53枚)内容:スパイロメーターを使用して呼吸機能検査を実施。肺年齢測定を行うことにより、慢性閉塞性肺疾患(COPD)の予防及び普及啓発を呼びかけた。(参加者:53名) ③1) 「全国一斉複十字シール運動キャンペーン」(JR天王寺駅) 2) 配布物4点(ポケットティッシュ:4000個・うちわ:350枚・カットパン500個・シールぼうや小型シール:1000枚)内容:当法人職員と大阪市地域女性団体協議会会員の総勢18名とシールぼうやが、観光客等で賑わうJR天王寺駅中央コンコースで結核予防啓発グッズを配布し、結核予防の普及啓発及び複十字シール募金の協力を呼びかけた。 ④1) 「結核予防週間・複十字シール運動キャンペーン」(当法人正面玄関前) 2) 配布物3点(ポケットティッシュ:300個・うちわ:120枚・エコバッグ:60個)内容:「結核をなくそう」等ののぼりを設置し、啓発グッズを配布することで結核予防週間の周知と複十字シール募金の協力を呼びかけた。 ⑤1) 「結核予防週間街頭キャンペーン(堺市実施)」(堺駅前周辺) 2) 配布物1点(ポケットティッシュ:1,500個)内容:堺市主催の街頭キャンペーンに当法人職員3名も参加。「結核をなくそう」ののぼりを設置し、堺市キャラクター「サカエル」「ムーヤル」がシールぼうやの代わりとなり、啓発グッズを配布することで結核予防週間の周知と複十字シール募金の協力を呼びかけた。 ⑥1) 大阪府・大阪市・堺市・東大阪市・高槻市・豊中市・枚方市・八尾市に、結核の常識:21,700部・ポスター:4,085枚・ポケットティッシュ:33,575個・うちわ:500枚を配布。 2) 大阪府内各医師会に、ポスター:7,940枚を配布。 3) 大阪府内各教育委員会に、結核の常識:2,363部・ポスター:2,363枚を配布。 4) 当法人相談診療所・大阪府・堺市・東大阪市・高槻市・豊中市・枚方市・八尾市に、結核の常識:500部・ポスター:70枚・ポケットティッシュ:8,000個・うちわ:500枚を配布。 外来入院患者や健診受診者へ普及啓発を行った。 ⑦1) 当法人ホームページにおいて、本年度のグッズ、各行事の写真を掲載し結核予防週間の周知を行った。 2) オリジナルパネルを作成して当法人正面玄関前に設置、結核予防週間の周知を行った。
兵庫	9/27	1カ所	24(うち婦人会7名、兵庫県1名、中播磨健康福祉事務所2名、姫路市保健所4名、姫路市公衆衛生委員4名)	2点1,000セット+ 姫路市提供 ティッシュ、棒 付き風船50個	1) JR姫路駅(中央コンコース北口周辺) 2) 啓発資材(ティッシュ1,000個、結核予防会リーフレット1,000部、姫路市提供ティッシュ、棒付き風船50個)の配布。視覚資材としてののぼり、シールぼうや人形、週間ポスターの活用、スタッフのベストとタスキ着用による啓発を行い、募金の呼びかけ。 ③ その他9月21日(金)には、結核予防週間およびがん征圧月間の効果的な周知を目的に「がん・結核セミナー」を開催し、329名の参加者があった。以後10月4日(木)には兵庫県生協大会、10月11日(木)には阪神シニアアカデミー文化祭、11月17日(土)にはいなみ野学園いなみ野祭において肺チェックを用いたCOPD等の啓発を実施予定。

都道府県	日付	開催数	係員合計	資材点数・セット数	報告 (1 場所・2 活動内容・3 その他)
奈良	結核予防週間中	5カ所	24	1～3点 約1,300セット	①結核予防週間として、奈良県庁内で募金活動及び啓発ティッシュ(奈良県作成)・シールぼうやのシール・結核の常識を配布し、啓発活動を実施。(10/1) ②結核予防週間中の各保健所が行う啓発活動への連携を実施。(結核の常識2,000部・シールぼうやシール1,300枚配布) 1)JAならけん「まほろばキッチン」で中和保健所の結核予防週間イベントに参加し、啓発活動を実施。(9/27) ③結核予防週間を中心に、健康を守る婦人の会各支部で、イベント等に合わせた啓発活動及び募金活動。 ※啓発グッズとして「結核の常識」・シールなどを配布。
和歌山	9/27	2カ所	19	3点 1,600セット	1)JR和歌山駅前・南海和歌山市駅前 2)結核予防週間パンフレット「結核の常識2018」、複十字シール運動パンフレット、「あぶらとり紙」&啓発ティッシュの3点をセットにして配布した。
鳥取	①8/26, ②9/20, ③9/23	3カ所	57 (内婦人会45名)	4点 3,000セット	1)①バードハット ②倉吉パープルタウン ③イオン日吉津店の県内3カ所 2)複十字シール・複十字シール運動リーフレット・ポケットティッシュ・絆創膏等を配布して、鳥取県の結核状況をPRした。バードハットでは平井知事に櫃上でPR、知事夫人にしゃんしゃん傘踊りを披露いただき募金活動をPRした。また、シールぼうやのキグルミも活用した。 ※当初、街頭活動を予定していましたが、今年度も事情により困難なためFMラジオのCMのみとなった。
島根	9/23～30	-	-	-	期間中、FMラジオ(FM山陰：島根県ならびに鳥取県の全県下で放送)にて1日2本ずつ(土・日・祝は1日3本)、20秒CMを放送した。
岡山	9/22	1カ所	17	7点 4,040セット	1)JR岡山駅南地下道もたろう観光センター前広場 2)ポケットティッシュやリーフレットを配布しながら結核予防の普及啓発及び募金の呼びかけを行った。併せて、肌年齢や血管年齢等の健康チェックも実施した。岡山県のマスコット「ももっち」も加わり、キャンペーンを盛り上げた。
広島	8/1～12/31	5カ所	15	6点	①ポスター・パネル展示結核及びがんに関するポスター・パネルを展示。結核の常識を希望者に配布。複十字シール運動ポスターを掲示し、リーフレット・複十字シールと共に募金箱を設置し、結核への理解と募金活動への普及啓発を行った。 ②複十字シール募金箱設置広島県健康福祉センター1階エントランスホール、県庁正面玄関1階、10/20ひろしま国際センターの3カ所に設置。 ③広報資料配布広島県健康福祉センター1階エントランスホール、9/16リレー・フォー・ライフ・ジャパン広島会場(尾道市)、9/21ピンクリボンinカーブ、9/22がん検診へ行こうinマツダスタジアム、10/20ひろしま国際センター(留学生に配布)の5カ所で、広報資料(結核予防週間ポスター、複十字シール運動ポスター、その他関連ポスター、複十字シール運動リーフレット、複十字シール、結核の常識2018)を配布。
山口	9/1～31	7カ所	-	-	県下7カ所に設置された掲示板(山口県太陽光発電インフォメーションシステム)で、結核予防週間の情報をお知らせした。
徳島	9/11	1カ所	9	2点 520セット	1)あわぎんホール(徳島市) 2)「健康を考える県民つどい」を開催し、徳島県、徳島県婦人団体連合会の協力を得て、リーフレット、結核の常識2018を配付するとともに募金活動を実施した。
香川	9/25	1カ所	4	7点 300セット	1)ゆめタウン高松 2)結核予防婦人会香川県支部(香川県婦人団体連絡協議会)と協力し、結核予防のポケットティッシュや啓発資料を配布した。同時に、複十字シールについてのパネル展示も行い、来場者に複十字シール運動について知っていただくことが出来た。
愛媛	9/25	1カ所	9 (うち婦人会3名)	5点 500セット	1)松山市湊町5丁目よつぎ高島屋前の北側歩道(松山市駅北口)付近 2)街頭募金を実施し、ポケットティッシュ・リーフレット・小型シール・カレンダー・風船を配布。募金者にはクジ引きにて複十字シール運動の啓発グッズをプレゼント(Tシャツ・ボールペン・クリアファイル・フセン等)。 3)広報資料の配布 予防週間ポスター・結核の常識2018を県下市町、学校、婦人会等に配布。また、県医師会を通じて県下の病院・診療所等へポスターの掲示協力を依頼。
高知	9/23	1カ所	35	5点 180セット	1)高知県環境研究センター(高知県支部) 2)無料検診：毎年実施しており、結核やがんについてのパンフレット等を配布。新聞折込チラシで募集し、多数の場合抽選で受診者を決定し、当日受診いただく。 3)全国一斉複十字シール運動キャンペーンについては、予定をしていたが台風のため中止となった。
福岡	9/24～30	3カ所	55	6点 2,000セット	①全国一斉結核予防週間キャンペーン(主催：公益財団法人福岡県結核予防会、福岡県結核予防婦人会、後援：北九州市、福岡市、大牟田市、久留米市) 1)日程：9月24日(月・振替)11:00～16:00場所：大丸福岡天神店エルガーラ・バサージュ広場 2)「結核の常識」、複十字シール運動趣意書、複十字シール運動3折リーフレット、ポケットカレンダー、小型シール、マスクを袋詰めし、2,000セット配布。胸レントゲン検査、健康相談、血圧測定、体脂肪測定、骨密度測定、肺年齢測定を無料で実施。医師2名による結核予防ミニ講演×2回を開催。シールぼうや(着ぐるみ)が登場した。マジックショー×2回を開催。会場内に結核予防に関するパネルを展示した。バルーンアート配布。複十字シール運動募金を行った。 ②結核予防週間広報資料の頒布 官公庁、金融機関の県内各支部・支店およびその他関係事業所に対して「結核の常識」38,606部、結核予防週間ポスター5,875部を配布。 ③結核予防週間広報活動 福岡ヤフオク!ドームの球場内大型ビジョンにて結核予防および全国一斉結核予防週間キャンペーンの開催について放映。 ④懸垂幕の掲示 福岡結核予防センターに9月25日～28日まで懸垂幕を掲示。
佐賀	9/24	2カ所	18	7点 2,000セット	1)県内ショッピングセンター2カ所(イオン佐賀大和店・ゆめタウン佐賀) 2)当財団職員と県婦人会及び県庁職員の合同で、無料血圧測定やパンフレット・複十字シール・ティッシュ・風船等を配布しながら募金の呼びかけを行った。
長崎	①9/25, ②9/24～30	2カ所	①7(うち長崎市 地域保健課3名、 婦人会1名)	①4点 700セット ②結核の常識100 セットパネル5 点	①長崎市の町ヘルナード観光通り 2)結核の常識、リーフレット(長崎県作成)、マスク、複十字シール募金運動リーフレットをセットにして配布。 3)結核の基礎知識や複十字シール運動についてのパネルを(事業団作成)展示。 ②1)佐世保市役所本庁からすこやかプラザ連絡通路 2)結核の基礎知識パネル6点と併せて佐世保市の結核の現状をパネルにして展示していただいた。また、結核の常識やリーフレットを自由に取れるように配置していただいた。
熊本	①9/17, ②9/24	2カ所	①35 ②50	①7点 300セット ②7点 600セット	①1)御船町「ショッピングプラザマイン」 2)熊本県健康を守る婦人の会上益城支部および御船保健所の皆様と普及啓発資料(複十字シール運動リーフレット、結核の常識2018、複十字シール(小型)、カットパン、ポケットカレンダー、結核予防週間周知用うちわ、「そうほくん」ポストカード等)を配布した。 3)保健師による健康相談(17名実施)、無料結核検診(10名)、マスコットキャラクター「そうほくん」による記念撮影会を行った。 ②1)熊本動物園 2)熊本県健康を守る婦人の会熊本支部および熊本市の皆様と普及啓発資料(複十字シール運動リーフレット、結核の常識2018、複十字シール(小型)、カットパン、ポケットカレンダー、結核予防週間周知用うちわ、「そうほくん」ポストカード等)を配布した。 3)保健師による健康相談(18名実施)、無料結核検診(10名)、ステージイベント(くまモンステージ・キッズダンス・地元アイドルS.K.K.ライブ・そうほくんクイズ大会等) ※別途、肺がん・乳がんの模型展示、ポスター掲示、がん検診普及ののちチラシ配布等。
大分	9/26	2カ所	27	4点 300セット	1)トキハ本店前、中央商店街 2)結核予防婦人会、大分県健康づくり支援課及び大分市保健所と共催で街頭啓発活動を行うとともに、シール、リーフレット等を配布して募金を呼びかけた。
宮崎	①9/22, ②9/26, ③9/27, ④9/29	4カ所	①10 ②10 ③3 ④4	3点 800セット	1)①若草街市、②イオンモール延岡、③Aコープ高千穂、④イオンモール都城 2)広報資料「結核の常識2018」、がん検診のリーフレット、グッズの配布。 3)・結核予防週間ポスター送付(約500カ所) ・新聞社4社への結核予防週間の広告掲載 ・宮崎ケーブルテレビにて「街市」街頭キャンペーンの放送 ・新聞社1社への「街市」街頭キャンペーンの記事掲載 ・宮崎県庁への懸垂幕
鹿児島	9/28	1カ所	20	3点 2,000セット	1)鹿児島中央駅構内 2)県結核成人病予防婦人会及び県職員の協力を得て、複十字小型シール・複十字シール運動リーフレット・ポケットティッシュを配布した。また、「結核予防週間」「複十字シール運動」等のポスター、のぼり旗、結核に関するパネル等を掲示し、複十字シール運動の周知を図るとともに運動への理解と協力を呼びかけた。
沖縄	9/25～28	7カ所	48	10点 1,000セット	1)県庁ロビー・各保健所内(6カ所)・大型スーパーのイベント広場 2)パネル・ポスター展示、資料(結核普及啓発リーフレット、結核の常識2018、ポケットティッシュ、3色ボールペン)の配布を行った。 3)街頭キャンペーン・・・9月26日(水)実施 協力機関：沖縄県・沖縄県健康づくり財団(沖縄県支部)・沖縄県結核予防婦人連絡協議会・那覇市保健所 ※県民への結核予防普及啓発チラシ配布、街頭募金等を行いました。
本部	①9/29	2カ所	①6	①7点 150セット	①グローバルフェスタJAPAN(お台場) 2)国際協力に興味のある一般の方を対象に、結核予防週間や国際協力のポスター・パネル展示、リーフレットを配布してシール募金活動を行った。初お披露目のシールぼうや顔出しパネルをブース内に設置し、雨の中ではあったが多人数の方に関心を持って写真を撮ってもらうことができた。 ※2日間のイベントの予定であったが、台風24号の影響で2日目が中止となり、1日だけの出演となった。

平成30年度結核予防技術者地区別講習会実施報告

○講習会テーマ

- 合同会議 I・II (結核予防会) 「特定感染症予防指針の目標達成に向けて」
- 合同会議 (厚生労働省) 「特定感染症予防指針の進捗調査の結果と今後の方針」
- 医師講義 「結核の臨床」
- 診療放射線技師講義 「院内施設内における感染対策・放射線防護の考え方」
- 保健師・看護師講義 「結核のない世界をめざして～次世代に感染の連鎖を起さないために出来ること」

○開催地・講師一覧

開催地	日程	担当講師
北海道	8月9日(木)～8月10日(金)	合同講義：加藤 誠也(結核研究所所長) 医師：平尾 晋(対策支援部企画・医学科課長) 保健師：島村 珠枝(結核研究所対策支援部保健看護学科) 診療放射線技師：星野 豊(結核研究所対策支援部技術専門役) 厚生労働省：繁本 憲文(健康局結核感染症課課長補佐)
東北(青森県)	7月5日(木)～7月6日(金)	合同講義：加藤 誠也(結核研究所所長) 医師：吉山 崇(結核研究所企画主幹) 保健師：浦川美奈子(結核研究所対策支援部保健看護学科科長代理) 診療放射線技師：星野 豊(結核研究所対策支援部技術専門役) 厚生労働省：高倉 俊二(健康局結核感染症課課長補佐)
関東・甲信越(東京都)	8月30日(木)～8月31日(金)	合同講義：加藤 誠也(結核研究所所長) 医師：御手洗 聡(結核研究所抗酸菌部部長) 保健師：永田 容子(結核研究所対策支援部副部長) 診療放射線技師：星野 豊(結核研究所対策支援部技術専門役) 厚生労働省：繁本 憲文(健康局結核感染症課課長補佐)
東海・北陸(三重県)	9月6日(木)～9月7日(金)	合同講義：太田 正樹(結核研究所対策支援部部長) 医師：御手洗 聡(結核研究所抗酸菌部部長) 保健師：永田 容子(結核研究所対策支援部副部長) 診療放射線技師：星野 豊(結核研究所対策支援部技術専門役) 厚生労働省：繁本 憲文(健康局結核感染症課課長補佐)
近畿(京都府)	7月26日(木)～7月27日(金)	合同講義：太田 正樹(結核研究所対策支援部部長) 医師：平尾 晋(対策支援部企画・医学科課長) 保健師：永田 容子(結核研究所対策支援部副部長) 診療放射線技師：星野 豊(結核研究所対策支援部技術専門役) 厚生労働省：高倉 俊二(健康局結核感染症課課長補佐)
中国・四国(高知県)	7月19日(木)～7月20日(金)	合同講義：大角 晃弘(結核研究所臨床・疫学部部長) 医師：吉山 崇(結核研究所企画主幹) 保健師：島村 珠枝(結核研究所対策支援部保健看護学科) 診療放射線技師：星野 豊(結核研究所対策支援部技術専門役) 厚生労働省：高倉 俊二(健康局結核感染症課課長補佐)
九州(佐賀県)	8月2日(木)～8月3日(金)	合同講義：太田 正樹(結核研究所対策支援部部長) 医師：平尾 晋(対策支援部企画・医学科課長) 保健師：浦川美奈子(結核研究所対策支援部保健看護学科科長代理) 診療放射線技師：星野 豊(結核研究所対策支援部技術専門役) 厚生労働省：高倉 俊二(健康局結核感染症課課長補佐) ：繁本 憲文(健康局結核感染症課課長補佐)

北海道地区 (北海道)

北海道保健福祉部健康安全局地域保健課
感染症・特定疾患グループ

主査(結核) **山田 昌志**

今年度の北海道地区講習会は、8月9日～10日に札幌市内で開催し、道内の医療機関や保健所等から約120名の参加をいただきました。

結核研究所及び厚生労働省の講師の方々には、台風による悪天候が予想される中ご来道いただき、道内の結核予防に携わる関係者の知見や技能の向上を図るための貴重な講習会が無事開催できたことに、心から感謝申し上げます。

さて、本年の合同講義や三科別の講義においても、講師の方々から結核予防の基礎知識や最新情報などを詳細に説明いただき、結核の専門的な知見を深める時間を過ごすことができました。

また、結核対策特別促進事業の評価・報告では、帯広保健所から「外国出身の多剤耐性肺結核患者の支援」と題し、結核研究所と連携してモバイルDOTSを活用したという事例、札幌市保健所からは「札幌市におけるDOTSの取組について」と題し、大都市において院内、訪問、電話、外来、薬局の多様なDOTSを駆使し、治療完遂のため支援しているという事例の報告を受け、講師の方々からご助言をいただくなどして、保健所における結核患者の支援に係る課題等について理解を深める機会となりました。

行政担当者会議では、外国籍結核患者への支援、感染症診査協議会結核部会における医師の選定について具体的な意見や情報の交換を行い、各保健所の取り組み状況や課題等について情報共有したほか、講師の方々からご助言をいただくなど大変有意義な会議となりました。

道では、今後も結核研究所や厚生労働省の皆様のご

支援を賜りながら、本講習会をより充実したものにしていきたいと考えておりますので、関係者の皆様におかれましては引き続きご参加の上、本道の結核予防の推進にご尽力をいただきますようお願いいたします。

東北地区（青森県）

青森県健康福祉部保健衛生課
感染症対策グループ

木村 梨沙



東北地区は青森県が開催県となり、7月5日～6日に開催し、東北各地の行政機関、医療機関等から約200名の方々にご参加いただきました。

合同講義や三科別講義では、結核研究所や厚生労働省の先生方から、結核対策における知識・技術について、事例を交えながらご講義いただきました。

結核対策特別促進事業の報告・評価では、山形県から「保健所におけるVNTRの活用」、和歌山県から「結核の地域医療連携推進」について、それぞれ先進的な取り組みをご報告いただきました。本県からは「外国人技能実習生を感染源とする接触者健診」について報告しました。

また、行政担当者会議では、高齢者や外国人の結核対策に関する課題等について活発に意見交換を行いました。

結核に係る多くの知識の習得はもちろんのこと、情報共有を図ることができ、各地域における結核対策の推進に向け、大変有意義な講習会になったものと思います。

最後に、本講習会の開催にあたり、ご支援、ご協力いただきました関係者の皆様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

関東・甲信越地区（東京都）

東京都福祉保健局健康安全部
感染症対策課

課長代理 深澤 健

関東甲信越地区は東京都が担当となり、8月30日～31日に千代田区で開催し、都内外の医療機関、高齢者施設、行政機関等から約400名の方々に参加されました。

合同講義や三科別講義では結核に関する基礎知識と、今後の結核対策の方向性について講義をいただきました。

結核対策特別促進事業の報告・評価では、台東区から「ハイリスク者（路上生活者）への対応について」として、路上生活者健診の取組や山谷地域でのDOTSについて、新宿区から「新宿区の日本語学校結核健診」として、年間10,000人を超える規模で健診を実施する区内の日本語学校健診について報告していただき、東京都は「東京都における外国出生結核患者対策」として、結核の基礎知識、検査、治療、公費、健診等を7言語で解説した動画について報告しました。

行政担当者会議では高齢者の結核患者の早期発見対策、各自治体が抱える課題や結核対策について議論されました。

本講習会の開催について、講師の皆様、ご協力いただいた関係者の皆様に御礼申し上げます。

東海・北陸地区（三重県）

三重県医療保健部業務感染症対策課
感染症対策班

西岡 美晴

東海・北陸地区は三重県が開催県となり、9月6日～7日の日程で津市内にて開催しました。当日は、県内外の自治体、医療機関等から約170名の方々にご参加いただきました。

合同講義や三科別講義では、結核研究所や厚生労働省の講師の方々に結核の現状や最新の知見、今後の取り組み等についてそれぞれの観点からご講義いただきました。

結核対策特別促進事業等の報告・評価では、奈良県から「奈良県結核対策医師相談・地域連携強化事業」、愛知県から「地域包括ケアを視野に入れた結核患者の地域DOTSの推進」、当県から「外国人を対象とした結核対策について」と3つの取り組みをご紹介いただきました。高齢者・外国籍患者への対応、医療機関の確保は今後の課題であることから、これからの対策に大変参考になったことと思います。

また、結核行政担当者会議では、「80歳以上の者に特に重点を置いた取組み」や「外国籍の方の対策」等、直面している課題について情報共有を行うことができました。議題数が多く、時間内にすべての議題を終えることはできませんでしたが、大変有意義なものとなりました。

最後に、ご講演・ご指導いただきました講師先生方、

結核対策特別促進事業をご報告いただきました皆様、運営にご協力いただきました皆様、そして講習会にご参加いただきました皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

近畿地区（京都府）

京都府健康福祉部健康対策課
感染症対策担当

技師 東出 理沙



近畿地区は、京都府が事務局となり、7月26日～27日の2日間、京都市内で開催し、延べ431名の参加を得ました。

合同講義や三科別講義では、厚生労働省、結核研究所の先生方から結核対策の基礎や最新の知見について豊富なデータを元に丁寧に教えていただき、大変有意義な講習会となりました。

結核対策特別促進事業の報告・評価では、先進的な取り組みとして、東京都から外国出生結核患者対策、奈良県から結核対策医師相談・地域連携強化事業をご報告いただき、本府からは昨年度発生した精神科病院で集団感染の事例を紹介しましたが、各報告と講師の先生方の助言から多くの示唆を得ることができました。

行政担当者会議では、学校、高齢者施設や医療機関における接触者健診や、高齢者における結核発病患者の早期発見対策等、多くのことについて情報交換ができ、併せて先生方の助言をいただく中で、日頃の対策を再確認し今後の対策を考えるよい機会となりました。

最後になりましたが、講師の先生方、ご報告をいただいた皆様、開催にあたりご協力いただいた皆様に感謝いたします。

中国・四国地区（高知県）

高知県健康政策部
健康対策課

中村 渚



中国・四国地区では、高知県が開催県となり、7月19日～20日の2日間で、高知県内外の行政機関、医療機関等から約80名の方々にご参加いただきました。

合同講義や三科別講義では、結核全般にわたる基礎知識、現状を踏まえた今後の結核対策について丁寧なご講義をいただき、大変有意義な講義となりました。

結核対策特別促進事業等の報告・評価では、岡山県

から「岡山県における結核医療相談・技術支援センター事業について」行政と医療機関が協力して行っている先進的な取り組みについてご報告いただきました。広島県からの発表は残念ながら行えませんでした。広島県における外国出生者対策」についての資料提供に加え、結核研究所の先生からご報告をいただきました。そして、本県からは、「結核対策における結核分子疫学について」を報告させていただき、今後の各自自治体の結核対策の参考になる内容になったと思います。

中国・四国地区では、西日本豪雨災害の影響のため講習会の開催が難しい状況にもなりましたが、講師の先生方、各自自治体担当者の皆様、ご参加していただきました皆様のご支援とご協力のおかげで無事講習会を終えることができましたこと、この場を借りて深く感謝申し上げます。

九州地区（佐賀県）

佐賀県健康福祉部健康増進課
感染症対策担当

山口 明日香



九州地区は佐賀県が開催県となり、佐賀市内において8月2日～3日に開催し、県内外の医療機関や行政機関等から約220名の参加をいただきました。

講義では、結核研究所や厚生労働省の先生方から、国内外の結核対策の動向や最新の知見について分かりやすくご講義いただきました。中でも結核低まん延化に向けた今後の対策の方向性として、高齢者の健診受診強化や結核入国前スクリーニングの導入等、幅広い内容をご教示いただき、大変有意義な講義となりました。

結核対策特別促進事業及び結核対策の取り組み報告・評価では、岡山県の結核医療相談・技術支援センター事業について紹介いただき、医療関係者等が安心して相談し、最新の知識や技術の習得ができる体制の整備について、今後の結核対策を進める上で参考になるものでした。当県からは、外国人結核患者への取組や集団発生事例からの学びを報告いたしました。

行政担当者会議では、結核患者の医療提供体制や高齢者における結核発病患者の早期発見対策の取り組み等について活発に意見交換が行われました。

最後に、開催にあたりご指導いただきました講師の先生方をはじめ、ご協力、ご参加くださいました皆様に心より感謝申し上げます。

平成30年度 都道府県知事表敬訪問報告 続報

8月1日の複十字シール運動開始にあたり各都道府県では、各県知事を各県結核予防婦人会長ならびに支部役員等が訪問し、複十字シール運動への協力をお願いしました。今回は、前号No.382に続いて、8支部の報告です。

●東京都支部



8/27、谷茂岡会長（東京都地域婦人団体連盟）他役員4名と都庁を訪問。福祉保健局矢内技監を始め、4名にご対応をいただいた。櫻山理事長より複十字シール運動の趣旨と結核の現状についての意見交換を行った。愛嬌たっぷりのシールぼうやの複十字シールに興味を示され、結核予防への理解と昨年同様のご協力をお願いした。谷茂岡会長からは、婦人会の活動の現状を説明し、技監よりご理解と活動への激励をいただいた。キャンペーングッズをお渡しし、9/24に秋葉原で行われる予防週間街頭キャンペーン及び同時開催する「若者検診」へのご協力をお願いした。

●神奈川県支部



8/28、松尾会長（神奈川県地域婦人団体連絡協議会）、山本理事長他4名で黒岩知事を訪問。お忙しい知事ですが、今年は終了時刻を少し超えた長めの表敬訪問となった。日本における結核の現状など、「県民の健康」を第一に考えられる知事らしく興味を持ってお聞きくださり、結核や肺疾患の予防啓発運動に変わらぬ応援をいただいた。

●新潟県支部



9/11、横山会長、外山会長（食生活推進委員協議会）他2名で藤山福祉保健部長を訪問。横山会長が県内の新規結核患者及び胸部疾患の現状と、結核対策には正しい知識と対策が必要であることを伝え、今年度のシール運動への協力と結核予防思想の普及啓発への協力をお願いした。最後に、安藤理事長が高齢者・障がい者用リフト付き胸部検診車の支援についての要望書を手渡し、県からの財政支援をお願いした。これについて藤山福祉保健部長は、検診の現状と今後の方針、また県と結核予防会新潟県支部の役割分担などを踏まえて検討したいと述べられた。

●福井県支部



9/18、小寺支部長および酒井会長（福井県健康を守る女性の会）他役員が、池田健康福祉部長を訪問。事業の趣旨、結核の現状等を説明したうえで、複十字シール運動の意義・目的、現状を説明し、普及啓発の強化を各関係機関に対して働きかけていただくよう協力を依頼した。

●愛知県支部



8/3、宮本副知事を河間理事長、村上会長（愛知県地域婦人団体連絡協議会）らが訪問。結核の現状、愛知県における募金の状況などを説明し、複十字シール運動への協力をお願いした。

●広島県支部



8/30、湯崎知事を広島県支部の沖田常務理事、佐藤会長（広島県地域女性団体連絡協議会）、月村会長（広島市地域女性団体連絡協議会）ら6名が訪問。結核の現状及び複十字シール運動の趣旨、県内の募金状況等を説明し、本運動への協力をお願いした。

●愛媛県支部



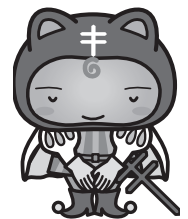
9/10、久野理事長と三好会長（愛媛県結核予防連合婦人会）ら役員5名が原副知事を訪問。久野理事長から結核は依然として重大な感染症であることを伝え、本運動への理解と協力をお願いした。婦人会からは、平成29年度の複十字シール運動（募金）の状況と今後の活動予定について報告を行った。また記念品として、ぬいぐるみ、メモ帳、ボールペン、クリアファイル、ポケットティッシュ、カレンダー、小型シール等を副知事に贈呈した。

●高知県支部




8/27、高知県健康政策部鎌倉部長を松尾常務理事、佐々木会長（高知県健康づくり婦人会連合会）他役員が訪問。複十字シール運動の趣旨及び高知県の募金状況などを報告し、複十字シール運動への協力をお願いした。鎌倉部長からもご理解と激励をいただいた。

猛暑日が続く最中、県のご担当者との調整を含め、無事、知事表敬訪問が行えましたことを、全国支部及び婦人会の皆様にご報告いたします。御礼申し上げます。



今年も清瀬市とブックカバーを作りました！

一昨年・昨年とご好評いただきました、清瀬市と共同のブックカバーとしおりを今年度も製作いたしました。結核療養の聖地とされてきた歴史を市の魅力と捉え、清瀬市は「医療のまち」として世界医療文化遺産への登録を目指しています。清瀬の地に結核診療・研究の拠点を置いてきた結核予防会では、国が提唱する2020年までに結核低まん延国とする目標に向けて、今後も予防思想の普及啓発に取り組んでいきます。

ブックカバー・しおりは、結核予防週間に合わせ9月中旬より都内を中心に三省堂書店13店舗で配布され、好評を博しました。



一昨年のデザインをベースに、落ち着いた緑色で仕上げました

三重県桑名保健所における 外国人を対象とした結核対策について

三重県桑名保健所 健康増進課
保健師 野口 昌靖

1. 管内の結核患者の発生状況

三重県桑名保健所は2市5町を管轄し、管内人口は283,396人（平成29年10月1日現在）で、三重県の最北部に位置している。名古屋市を中心とした中部経済圏にあることから人口が増加傾向にあり、経済活動が盛んな地域である。中小事業所では外国人労働者に対するニーズが強く、結核高まん延国からの外国人住民登録者が増加している。

管内では例年約30～50人前後の結核新登録患者の登録がある。また、外国人結核新登録者数は年々増加傾向にあり、平成28年、29年には6名の肺結核患者の登録があった。年齢層は10代～30代の若い世代で、モンゴルやフィリピン、ベトナムなどの結核高まん延国出身の技能実習生の患者が多かった（表1）。

表1 外国人結核新登録者の国籍（潜在性結核感染症含む）

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
モンゴル	2	0	0	2	0	0
中国	1	5	0	1	1	0
フィリピン	0	1	1	3	4	0
ブラジル	1	1	0	0	1	1
ベトナム	0	0	0	1	4	1
その他	1	0	0	2	3	2
計	5	7	1	9	13	4

※平成30年7月11日現在

2. 多剤耐性結核（MDR-TB）外国人患者3例の経験

当所が外国人の結核対策に取り組む契機となったのは、3例のMDR-TBを経験したことである（表2）。3例とも外国人技能実習生であった（表3）。

表2 全国と管内の新登録結核患者とMDR-TB患者の届出

		平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
全国	新登録患者数 (罹患率)	20,495 (16.1)	19,615 (15.4)	18,280 (14.4)	17,625 (13.9)	16,789 (13.3)
	MDR-TB	47	56	48	49	52
桑名	新登録患者数 (罹患率)	36 (12.7)	43 (15.2)	44 (15.5)	56 (20.0)	31 (11.0)
	MDR-TB	0	1 (中国人)	0	2 (モンゴル人)	0

※全国のデータは結核登録者情報調査年報より引用

表3 MDR-TB患者の概略

	A 33歳男性	B 29歳女性	C 25歳女性
入国時期	平成24年7月	平成26年1月	平成26年1月
登録時期	平成26年10月	平成28年1月	平成28年6月
発生届時 菌検査	G1号 (入院勧告)	塗抹陰性 培養陽性 (入院勧告なし)	塗抹陰性 培養陽性 (入院勧告なし)
MDR-TB 判明までの 日数 (検体採取後)	37日	68日	42日
MDR-TB 判明後の対応	入院継続	専門病院へ搬送	専門病院へ搬送
使用薬剤	KM.TH.LVFX	DLM.INH.EVM PAS.LVFX	DLM.KM.TH PAS.LVFX
DLM 治療期間	投薬なし	202日	230日
入院期間	53日	172日	131日

Aの患者については喀痰塗抹G1号であったことから入院で、B・Cの患者については塗抹陰性、培養陽性であったことから外来通院で標準治療を開始したが、薬剤感受性検査により治療開始後にMDR-TBと判明した。

Aの患者についてはMDR-TB判明後も同じ病院で入院治療を継続した。デラマニド（2014年に発売。以下「DLM」）の使用が検討されていたが、結核菌の陰性化が確認されたため退院し、3年間の研修期間が終了となり帰国となった。B・Cの患者についてはMDR-TBの判明後、名古屋市の専門病院へ保健所が移送を行った。DLMの使用のため入院期間はそれぞれ172日、131日と長期間にわたった。退院後はいずれも外来通院で治療を続けていたが、来日中に終了しなかったため、母国の専門医療機関への紹介状を持ち、在留期間の終了とともに帰国となった。なお、VNTRの検査報告により、B・Cの患者は同じ技能実習生のグループの患者であったが、異なる菌株であった。

DLMは高額であり、入院勧告による入院治療中は経済的負担が軽減されるが、通院治療では5%の自己負担が治療継続の障害となることが考えられた。そのため、DLMを使用していたB・Cの患者については、3回連続検痰で塗抹・培養検査ともに陰性という「退院させなければいけない」規定と在留期間を考慮した治療方針の細やかな情報のやり取りを主治医と行い、

喀痰検査を1回/月のペースとすることで、なるべく入院期間を長くとした。

3. 本事例における問題点

DLMを使用するMDR-TB患者では医療費が高額になるため、入院期間に関しては慎重な対応が求められる。例えば、喀痰検査は機械的な3連痰の陰性化の確認ではなく総合的に感染性を判断するスタンスで、病院と情報の共有を図ることが必要である。また、事業所や派遣元の共同組合は結核に関する知識が不十分なことが多く、健康管理を含めた丁寧な情報提供が必要であると認識した。さらに、外国人患者の生活支援においては、食事や言語などの生活習慣が母国とは異なるため患者のストレスが大きく、友人などの身近な支援者の存在が不可欠であった。

4. 結核対策特別促進事業

今回の多剤耐性結核患者との関わりの中で、外国人技能実習生や派遣元の共同組合に対して、結核に関する正しい知識を普及し啓発する必要があると考え、平成29年、30年度に、結核対策特別促進事業として外国人への結核対策を取り上げることとした。

【健康教育】

外国人技能実習生は日本に入国後、1カ月間の集合研修を経て各事業所へ派遣される。そのため、入国後の研修中に、①有症状時に早期に受診し結核の早期発見と治療につなげること、②精密検査が必要となった際に受診のフォローをするなど、事業所の担当者が適切に対応できるようにすること、の2点を目的とし、健康教育を実施している。保健所で資料を作成し、結核に関する正しい知識と一般的な感染症の予防方法、マスクの着用の仕方、健康診断の重要性について説明を行っている。

【事業所におけるDOTS】

事業所におけるDOTSについては、①技能実習生だけでなく、事業所にも結核と治療について説明し理解と協力を求めることで、服薬の必要性について動機づ

けを行うこと、②患者が確実に服薬できるような適切な対応を事業所の担当者とともに考えること、の2点を目的とし、DOTSを事業所に依頼した。これにより、実習生が出勤する平日は職場の職員の前で必ず服薬を行った、というDOTS実施事例ができた。

【事業の効果】

今回の事業を通して、国籍が異なると衛生に関する文化や結核に関する認識、医療の体制も異なることが分かった。また、病院受診時に事業所の管理職が同行、通訳を手配することで、確実な受診や服薬管理、情報のやり取りをすることができた。さらに、事業所の理解と協力が得られたことで、接触者健診を混乱なく実施することができた。

5. 今後の課題

今後も労働力人口の減少に伴う外国人労働者の増加が予想されること、技能実習生の在留期間が3年から5年に延長されることから、外国人への結核対策は重要な課題である。現在は1カ所の共同組合で健康教育を実施しているが、現時点で管内には11カ所の共同組合があり、今後は実施する共同組合を増やしていきたいと考える。また、DOTSの確実な実施には派遣元の共同組合や事業所、同居者の理解と協力が不可欠であるため、今回の事業を継続することで、引き続き、結核に関する知識を普及、啓発していく。さらに、入院中の医療費や退院後の通院、生活面の支援や帰国後の治療について、事業所や医療機関と保健所等、関係機関の連携・ネットワークづくりを進めていく必要があると考える。🐼



県の花
ハナショウブ

高齢層における結核発症者の早期発見のための対策について

厚生労働省健康局結核感染症課
課長補佐 繁本 憲文

我が国の結核は、患者数及び罹患率（人口 10 万人あたりの新規発症患者数）ともに年々減少しており、平成 29 年の新登録患者数は 16,789 人、罹患率は 13.3 と過去最低となっています。厚生労働省の目指す罹患率 10 以下を達成するためには、これまでの総合的な対策を続けていくとともに、罹患率の高い集団に向けた対策を一層加速させる必要があります。

その集団の一つは高齢者です。近年は接触者検診と潜在性結核感染（LTBI）に対する発症防止のための治療が積極的に行われるようになり、新たな感染者からの発病者が減少しています。一方、結核がかつて国民病であった時代に罹患した方が、長い潜伏期間を経て、高齢化による免疫力の低下に伴い結核を発症する例が多くみられ、平成 29 年結核新規登録患者の約 7 割が 60 歳以上の高齢者でした（図 1）。特に、80 歳以上では新規登録患者の約 4 割を占め、罹患率は 60 を超えている状況です（図 2）。

図 1 結核患者の年齢別割合（平成 29 年）

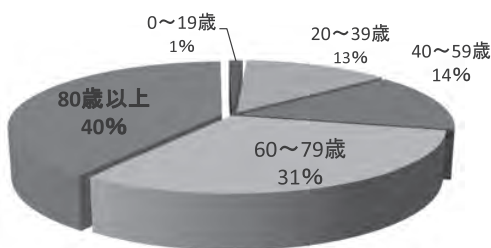


図 2 年齢別結核罹患率（平成 29 年）

年齢	罹患率
80歳以上	62.6
60~79歳	16.2
0~59歳	5.8

結核のまん延防止には結核患者の早期発見が重要です。今般、80 歳以上の者に重点を置き、高齢者の結核早期発見を強化していくことが、第 9 回厚生科学審議会結核部会（平成 30 年 2 月 26 日開催）において決定されたことから、厚生労働省としては平成 30 年 4 月 27 日に「高齢者における結核発症患者の早期発見対策について」（健感発 0427 第 1 号）通知を発出いたしました。以下、通知文を引用。

今般、80 歳以上の者に重点を置き、高齢者の結核早期発見を強化していくことが、第 9 回厚生科学審議会結核部会（平成 30 年 2 月 26 日開催）において決定されたことから、下記を参酌の上、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成 10 年法律第 114 号）第 53 条の 2 に基づき市町村長が 65 歳以上の住民に実施する定期の健康診断（以下「定期健康診断」という。）について、80 歳以上の者に特に重点を置いて実施し、結核患者の早期発見を図るよう、貴管下市町村及び関係機関に対し周知徹底いただくよう、お願いいたします（本対策の実施・計画状況については、平成 30 年 10 月を目途に調査を実施する予定です）。

なお、定期健康診断の費用はすでに地方交付税措置されていますが、結核対策特別促進事業において 80 歳以上の高齢者に対する健診受診強化等患者早期発見のための事業は対象となるので、同事業の活用についても検討してください。

本通知は、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 245 条の 4 第 1 項に規定する技術的な助言とします。

また、本件については、公益社団法人日本医師会にも別添のとおり周知していることを申し添えます。

記

1 個別勧奨の実施

80 歳以上の定期健康診断対象者に対し、受診案内を送付する等、個別の勧奨を実施してください。なお、結核対策特別促進事業においては、定期健康診断対象者へ個別勧奨するの郵便費用は補助対象経費から除きます。

また、結核担当部署単独での勧奨実施を求めるものではなく、他制度・他部署と連携し、郵送代金等追加費用がかからない方法等工夫をお願いします。

（例）後期高齢者医療保険証更新の対象住民への個別送付に同封
※あくまでも参考例であり、各地の状況に応じて実施してください。

2 受診機会の拡大

(1) 個別健診の推進

定期健康診断の個別医療機関への委託（以下「個別健診」という。）を推進し、定期健康診断対象者の受診機会の拡大や受診状況（特に 80 歳以上）の把握に努めてください。

個別健診の実施に当たっては、①地域医師会と業務委託契約を締結（※）、②地域医師会において個別健診実施医療機関を募集、③個別健診実施医療機関にて定期健康診断を実施、④地域医師会より健診結果報告を受ける、という流れが基本となります。

（※）地域医師会との契約に当たっては、別紙「契約書等参考例」を参考にしてください。

(2) 個別健診実施医療機関による受診勧奨

定期健康診断の対象者が、結核以外の疾患等で個別健診実施医療機関を受診した際、その医療機関において積極的に定期健康診断の受診勧奨をするよう、管内個別健診実施医療機関へ依頼してください。

3 受診率向上に向けた啓発や受診勧奨時において伝えるべき要点

定期健康診断受診率向上策の実施に当たっては、以下の点を踏まえてください。

- ・結核健診は個人の健康のためだけではなく、早期発見によって家族や社会への感染を防ぐまん延を防止するという観点から特に重要なこと。
- ・高齢者が結核発病の高リスク層であること。とくに 80 歳以上の高齢者の罹患率は全年齢層平均の約 5 倍であるということ。
- ・高齢者では自覚症状の訴えが乏しいことや非典型的であることから、結核発病時に発見が遅れやすいこと。

この通知の要点は①80歳以上の高齢者に対して個別に定期健康診断の受診を推奨すること、②医療機関と連携して健康診断の受診の機会を増やすこと、③結核の家族や地域へのまん延を防ぐために注意啓発を行うこと、の3点です。

まず、健診の受診推奨について、これまでも自治体で実施されている65歳以上の住民に対する定期健診がありました。80歳以上の高齢者に対して受診率を高める策は取ってきていませんでした。また、入所施設では管理者に入所者の健診が義務付けられておりますが、通所施設ではそのような義務はありません。こうした状況を踏まえ、定期健診の受診を推奨していただくこととしました。通知にある後期高齢者医療保険証更新の対象住民への個別送付に同封する、というのはあくまで例であり、通所施設を利用した際、病院を受診した際あるいは保健師が訪問した際など、様々な機会を利用して定期健診の受診を推奨していただきたいというのが趣旨です。

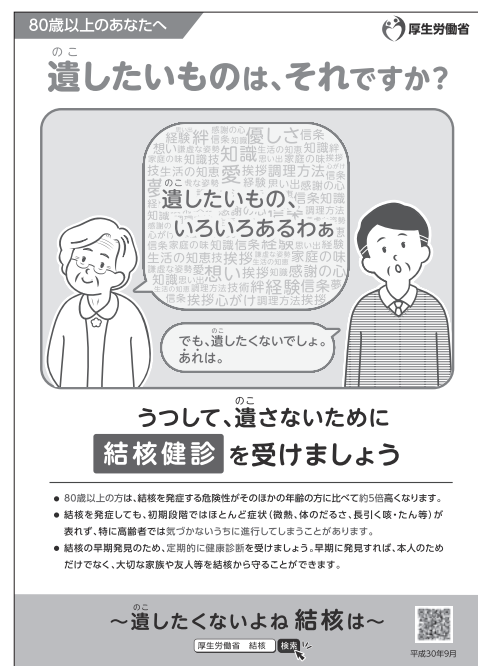
次に医療機関との連携ですが、80歳以上の高齢者には他の疾患で定期的に通院されておられる方も大勢おられます。そうした方々へ健診の機会を提供するためには、通院されている医療機関で健診を実施できるようにすることが有効と考えられます。そのためには自治体と医療機関が協力していくことが必要です。また、通院時に個別に健診の受診を推奨することがより効率的にできるようになると考えられます。

最後が注意啓発です。結核は排菌しはじめると家族や近隣住民に感染が拡大してしまう可能性がある疾患であるということ、個人の健康のためだけでなく、大切な家族や周りの人たち、ひいては社会を守るために健診を受けることは重要な役割をもっているということを伝えていく必要があります。さらに、80歳以上の高齢者では結核の発病率がとくに高いこと、発病しても自覚症状が乏しいことや症状からは診断がつきにくい場合があることを伝えることが、健診の受診につながっていくと考えられます。

本年9月の結核予防週間の標語は「遺したいものは、それですか?」でした(図3)。誰にとっても結核は遺

したいものではありません。健診等による早期発見によってまん延防止が可能ですが、そのためには国民一人一人に結核を自分のこととしてとらえていただくこと、決して過去の疾患ではないことを知っていただくことが重要なのです。

図3 平成30年度結核予防週間リーフレット(厚生労働省作成)



～ Stop TB Partnership との覚書締結と Center on Global Health Architecture の取り組み～

三菱UFJリサーチ & コンサルティング：Center on Global Health Architecture

「三菱UFJ」という社名から「何故、銀行が？結核？グローバル・ヘルスに取り組んでいるのか？」という問い掛けをよくいただきます。三菱UFJリサーチ&コンサルティングは、三菱UFJ銀行を親会社に持つシンクタンク／コンサルティング会社で、官公庁の政策立案支援や民間企業の経営コンサルティングに従事するほか、NPO/NGOと社会的な活動を実施させていただくこともあります。新事業開発室の新たな挑戦として、2017年に「Center on Global Health Architecture」を設置し、グローバル・ヘルスに貢献するための活動に取り組んでいます。例を挙げますと、英国王立国際問題研究所（通称：Chatham House）のCenter on Global Health Securityとロンドンにて国際シンポジウムを開催することで、グローバル・ヘルスにおける民間セクターの役割や新たなテクノロジーの登場についてアジェンダ・セッティングに関与しています^{i,ii}。このような取り組みは、政府や国連機関等の公式なハイレベル会合と異なり緩やかな場ではありますが、将来的に重要になるだろう論点を探索し、未来志向でソリューションについて語り合うための機会として重要であると考えています。また2017年12月のUHCフォーラムの際には、「AMR（薬剤耐性）問題と迅速診断」に関するサイドミーティングを英政府と共催する等してきました。こうした国際的な議論の場を民間のシンクタンクとして形作りながら、いくつかの疾患やテーマについては、パートナー企業・団体と共に、具体的な事業、プロジェクトに着手しています。

Stop TB Partnership との MOU 締結の経緯

そのような活動を進める中で、私自身、“All Japan”と“Global Design with Japan”のバランスについて考えを巡らせてきました。「確かに日本の関係者が力を

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社
Head, Center on Global Health Architecture
／新事業開発室 副部長

小柴 巖和



合わせることは大切。しかし、国際的なプレイヤーと、連携・協力体制を強化し、世界で活躍できるような環境を整えていくことも重要だ」という至極当たり前の視点です。長年に渡り皆様もこの視点を持って活動に取り組まれてきていることと存じます。一方、シンクタンクとしての社会的役割を踏まえると、国際的なプレイヤーとの連携・協力が極めて限られることに自省の念が湧いてきました。そのような考えから、ジュネーブ、ロンドン、ニューヨーク、ワシントンDC、コペンハーゲン等の関係者を定期訪問し意見交換を重ねています。

「Stop TB Partnership（以下、STBP）」はその動きの中で頻繁に議論を交わしてきたパートナーの一つです。1年程に及ぶ意見交換の結果、2018年7月、STBPと弊社はMOU（Memorandum of Understanding：覚書）を締結しました。高負担国での対策、2017年に世界で約60万人の罹患が推定されている多剤耐性や100万人とされる小児結核への取り組み、予防の高度化等について、「未来志向」でどのような仕掛けを準備していくべきか、これが今回のMOUのポイントですⁱⁱⁱ。特に、Disruptive Innovation^{*1}、Game Changer^{*2}をい



STBP と MOU を締結

かにして支援するか、という点が両者の最優先事項です。具体的には、昨今、革新が進むAIやBlock Chain等のデジタルテクノロジーについて、最新動向の情報整理を連携実施すること、その開発や適切な普及を支える仕組みを整えるべく協力することをうたっています。弊社は日本を拠点に活動を展開していますので、特にアジア太平洋地域におけるSTBPとの連携を重視し、既存の常識に固執せず「Think Big」を合言葉に、End TBを実現させる方法論をゼロベースで考え支え合うことを互いに確認しています。

デジタルテクノロジーとTB

去る2018年9月、国連総会ウィークのサイドミーティングとして、STBP等により「TB Innovation Summit」がニューヨークで開催されました^{iv}。この会合ではWHO事務局長のTedros Ghebreyesus氏やグローバル・ファンド事務局長のPeter Sands氏を初め、南アフリカ、ナイジェリア、モザンビークの保健大臣等が登壇しました。民間企業からは共催のJohnson & Johnsonに加え、Cepheid、GSK、BDのC-suiteやVice-President、世界のスタートアップ数社がスピーチを行いました。弊社もSTBPとのMOU締結について発表すると共に、新たなテクノロジーの開発支援、適切な普及支援に協力する意思を表明しています。同会合では、次世代型スタートアップとして、非専門家による早期発見支援のためのAI活用サービス「CAD4TB」を提供するDELFTやアドヒアランス支援モバイルサービスを提供するSureAdherence等、新たなテクノロジーの

ショーケースも設置されていました^{v,vi}。

今後の連携促進に向けて

本稿ではデジタルテクノロジーを強調しましたが、様々な技術や製品・サービス、活動の組み合わせがSDGs達成に向けた抜本的ソリューションを生むと考えています。STBPも多様な日本企業、日本関係者との連携を望んでいることは間違いなく、弊社としても少なからず、関係構築に貢献したいと考えています。弊社Centerは設置からまだ1年半。よちよち歩きの赤ん坊と同じです。拙稿をご覧いただいた方々に、是非、「未来志向」でのご連携をお願ひできますと幸いです。🐼

ⁱ Chatham House Website, “The Role of the Private Sector in Global Health Security”, <https://www.chathamhouse.org/event/role-private-sector-global-health-security>, 2018/10/1アクセス

ⁱⁱ Chatham House Website, “Harnessing New Technologies for Global Health Security”, <https://www.chathamhouse.org/event/harnessing-new-technologies-global-health-security>, 2018/10/1アクセス

ⁱⁱⁱ WHO (2018), “Global tuberculosis report 2018”, http://www.who.int/tb/publications/global_report/en/, 2018/10/1アクセス

^{iv} Stop TB Partnership Website, “Global Health Business Leaders Pledge Major Commitments to End Tuberculosis”, http://www.stoptb.org/news/stories/2018/ns18_070.asp, 2018/10/1アクセス

^v Delft Imaging Systems Website, <https://www.delft.care/>, 2018/10/1アクセス

^{vi} SureAdherence Mobile Technology Website, <http://www.sureadhere.com/>, 2018/10/1アクセス

* 1、* 2：業界に劇的な変化・革新をもたらす技術やビジネス等を取り入れること、その主体を意味する。



TB Innovation Summitの様子 (STBP 提供)

アメリカ胸部疾患学会 (ATS) 年次総会

結核予防会複十字病院

臨床医学研修部臨床研修科科長 森本 耕三

アメリカ胸部疾患学会 (ATS: American Thoracic Society) の会員は、120カ国から16,000人を超え、ヨーロッパ諸国を主体とするERS (European Respiratory Society) と並び、呼吸器疾患では世界最大の学会です。

歴史は古く、1905年にAmerican Lung Associationの部会としてAmerican Sanatorium Association (アメリカサナトリウム協会) という名称で設立され、1938年にはAmerican Trudeau Societyと名前を変えました。ATS年次総会では毎年TrudeauメダルというATSの最高賞が発表されますが、TrudeauはAmerican Sanatorium Associationの設立者の名前に由来します。彼自身、学生時代に結核を患いサナトリウム療法で治癒を得たことから、北米のサナトリウム拡大に貢献した人物でもあります。米国のサナトリウムは、1950年はじめには839施設、136,000ベッドがあったそうです。その後、結核以外の呼吸器疾患も重要となり、その役割の変化から、1960年に現在の学会名American Thoracic Societyへと変更されています。

つまり、現在COPD、喘息、間質性肺炎、肺癌、睡眠時無呼吸症候群、呼吸不全など呼吸器のあらゆる分野でリードするATSの歴史の端緒が、結核治療を推進するサナトリウム協会であったのです。ATSでは、米国の結核低まん延化後も、結核分野の最先端研究が学会誌に発表され続けており、CDC (アメリカ疾病管理予防センター) と連携し、世界の結核研究分野をリードしています。年次総会の結核セッションには、貢献が目覚ましい結核まん延国から多くの医師、研究者が参加しており、貴重な研究発表の場となっています。また上記のように、結核分野から呼吸器疾患全体へとその役割を柔軟に変えつつ、全ての分野において研究、教育、臨床まで幅広くリードする体制を維持しているため、ATS年次総会に出席することは出席者に大きな刺激となります。

私は、抗酸菌分野でも非結核性抗酸菌症を専門とし

ています。年次総会にはじめて出席した2004年当時 (DPB様陰影を呈した肺MAC症のケースシリーズでした) は、非結核性抗酸菌症に興味をもつ人も少なく結核セッションの一部に含まれていたと記憶していません。しかし、その後北米を含む多くの国から有病率の増加傾向が報告されるにつれ、独立したセッションがつけられ、近年では結核と並び、シンポジウムを含む複数のセッションが組まれるようになりました。さらに、この数年で日本では希少疾患として興味をもたれなくなっていた気管支拡張症を種々の病因と合わせて議論する潮流が起こり、NTMも気管支拡張症の中で議論されるようになってきたことでさらに演題が増え続けており、学会期間中はとても忙しく動き回っています。

今年の学会で会場が少し異様な雰囲気になった発表がありました。それは、一酸化窒素 (NO) を高濃度で吸入して最難治性抗酸菌症である肺 *M. abscessus* 症を治療する、というものです。NOは、生体内でも産生され抗菌活性を有することから、高濃度で吸入して抗菌治療しようという発想です。既に安全性を確認しており、160 ppmの吸入では問題がなかったそうです。健常人の平均的な鼻腔のNO濃度は0.5ppm程度なので300倍以上の濃度になります。基礎実験では *M. abscessus* だけでなく、真菌の *Aspergillus* にも効果があるそうです。発表の一つはイスラエルのグループからで、嚢胞性線維症という肺基礎疾患をもつ患者さんに *M. abscessus* が2次感染した症例に対する、オープンラベルの前向き試験の結果でした。160 ppm (1回30分1日5回) を計3週間吸入した結果、菌データが得られている5例のうち1例が消失、3例が減少を認めた、としていました。合併症は認めず十分に施行可能であり、将来期待できる治療法だと結論していました。抗生剤と使わずに治療可能であれば、新たな治療戦略と言えるでしょう。

一方、試験では、長期既存治療に無効であった症例に追加投与されていたため、新規症例に既存治療薬と併用して投与すればさらに効果が得られるのではないかと、とも期待されます。また、有効性が証明されれば、多剤耐性結核にも応用することが期待されます。冷静に動向をみる必要がありますが、今後の進展に期待したいと思います。

もう一つ注目されたのが、リポゾーマルアミカシンの第3相治験の結果です。世界ではじめて非結核性抗酸菌症のために開発された薬剤になります。アミカシンは日本で開発された注射薬剤ですが、リポゾーマル化して吸入することで、高濃度で直接病変に到達させる、というものです。日本からも複十字病院を中心に多くの症例が参加しており、米国に次ぐ数となりました（全世界で計336例が登録、日本からは50例）。試験は難治性肺MAC症症例に対して、リポゾーマルアミカシンを6カ月間追加投与して、6カ月目までの陰性化率を継続治療群と比較したものです。この結果、投与群29%、継続群8.9%であり、有意に陰性化率が高かったとしています。さらに、6カ月目で陰性が得られなかった症例も、7カ月目から吸入を継続または追加され、27.4%が陰性化を得られたとしています。興



ATSでの発表

味深いことに、陰性化を得られた症例は、6分間歩行距離が有意に延長したそうです。学会では、1990年代に現在の標準3剤治療を確立したテキサスのGriffithが、主任研究者として主要評価項目を達成したことを報告しました。今回の試験が同症に対する新たな知見をもたらしていることは間違いないと感じました。この発表内容は、ATSの学会誌（AJRCCM）9月号に掲載されています。米国では既にFDAより認可が下りており、本邦での動向が注目されます。

今年、参加者としてだけでなく、セッションの座長やシンポジストを担当させてもらいました。このような機会が与えられたことはとても恵まれており、関係した先生方には心から感謝いたします。

補足ですが、私は、結核研究所の先生方と共に、肺非結核性抗酸菌症の疫学を研究してきました。その結果、日本の有病率は10万人対110を超え、高まん延国状態にあることが分かりました。結核と同様に、ブレイクスルーに向けた取り組みが、予防会を含めた産官学連携によって進められることを強く願っています。将来、疫学調査を行い、罹患率、有病率の低下を確認しATSで発表するのが目標です。🐣



WBC (World Bronchiectasis Conference) にて、ATS/IDSAガイドラインの1st authorであるDr Griffithと座長を務める筆者

7週間の「国外で学ぶ」経験を生かし

-国際研修「平成30年度UHC時代における結核制圧コース」に参加して-

瀋陽市第十人民医院

瀋陽市胸科医院 ^{ガオ ヤナン} 高 亜男

私は、瀋陽市第十人民医院（瀋陽市胸科医院）の高亜男と申します。この度は、結核研究所で行われたJICAが主催する国際研修「UHC時代における結核制圧コース」へ参加させていただきましたこと心より御礼申し上げます。当研修は私にとって、大学時代からの私の目標であった「国外で学ぶ」初の経験となりました。

研修では、沢山の素晴らしい経験があり、UHCと結核に関する多くの新しい知識を学ぶことが出来ました。UHCの主要目標は、破たんの財政負担なく全ての人に質の良い医療を提供することです。UHCは、言うなれば事前に計画をすることであり、危険が来る前に計画をするという中国の慣用句「未雨綢繆*」に通ずるものがあります。日本はUHCの側面において、世界をリードする立場にあります。日本のUHCシステムは、全ての人に利益があります。医療機関は円滑な連携関係にあり、患者は多額の医療費負担や遠方へ出向くことなく医療を受けることができます。

長い潜伏期間、強い感染力と薬剤耐性のため、結核は世界に非常に大きな脅威を与える感染症です。結核治療の有効性を決定づけたDOTS対策においても、日本は世界をリードしています。石川名誉所長による世界のDOTS対策に関する講義では、若くから世界のDOTS対策に従事し、何千人もの人々を救う素晴らしい対策を行われてきたことに感銘を受けました。また、加藤所長を筆頭に、日本の保健システムや結核対策指針の詳細についても学びました。横浜市への視察訪問では、地域の結核患者を対象とした、看護師による密接なDOTSプログラムについても拝見しました。

最終課題に向けて、チューターの皆様は親身になって指導をして下さいました。夜遅くまで講義の準備をしているにも関わらず、メールや直接私達の疑問に丁寧にご対応下さいました。私の課題に対しては、遅い時間までご指導されるだけでなく、多剤耐性結核の専門講師によるご助言まで頂戴することが出来ました。私達への指導に手を緩めることはない皆様の姿は、古

代中国の有名な教育家、孔子の論語にある、「他人を根気よく指導する」という精神に通ずると感じております。広い観点では、私達研修生のみを指導しているのではなく、私達の患者、病院そして国々をも支援して下さっていることとなり、世界の人類に貢献しているとも言えます。また親身になって私達の生活をサポートして下さいました研修監理員や事務職員の方々へも御礼申し上げます。

研修では知識や技術を身に付けるだけでなく、世界各国からの研修生と友好を深め、異なる経験、知識、考え方を共有することが出来ました。結核対策とは、違いがある中でも共通の地盤を形成することだと思っております。私は中国医学と西洋医学を専攻したため、中国医学が各国で幅広く使用され認知されていることを知り、大変素晴らしいと思いました。また日本人研修生には日常生活、学習の双方で大変お世話になりました。

課外活動では、日本語教室、ホームステイ、清瀨国際交流パーティ、英語でしゃべらん会があり、講義時間外も豊かに過ごし、また日本の慣習を理解する手助けになりました。日本語教室では、盆踊りを習い、美しい着物の試着をし、おいしい日本食をごちそうになりました。ホームステイを通じて日本のご家族とも友好関係を築くことが出来ました。

また結核予防会総裁である秋篠宮妃殿下とご懇談出来ましたことを非常に光栄に存じます。

清瀨市長は大変親切で、日本語のスピーチであっても、私達研修員が理解出来るよう、全力を尽くして下さいました。また清瀨産のトウモロコシや素敵な紙工芸品をプレゼントして下さいました。

さよならを言うのはとてもつらいですが、私達は自国へそれぞれ帰国します。将来、また会える機会は限られているかもしれませんが、ただ、この7週間の学びと生活は、私の人生にとって大切な思い出です。研修で得たことを最大限に生かし、世界の人々へ貢献して参ります。有難うございました。🍵

*雨が降る前に窓の修繕をする：「転ばぬ先の杖」

将来進むべき道標

-国際研修「平成30年度UHC時代における結核制圧コース」に参加して-

国家レファレンスラボラトリー（イラク）

Ahmed Majid Ahmed AL-ISMEE

この度は、結核研究所で行われたJICAが主催する国際研修「UHC時代における結核制圧コース」へ参加させていただき、大変光栄に存じます。

ワークショップ、グループ討論、プレゼンテーション、チュートリアルなど、沢山の活動が盛り込まれた研修を通じて、問題を分析し、オペレーショナルリサーチを実施する知識を得ることが出来ました。異なる国々からの研修生と経験を共有し、違いを認め合うことを学び、お互いに助け合ったことは、私達の視野を広げる機会にもなりました。知識の習得以外では、結核予防会総裁である秋篠宮妃殿下とご懇談出来ましたことを非常に光栄に存じます。研修員全員にとって、大変貴重な素晴らしい経験となりました。

研修の45日間、沢山の木々がある平和な清瀬市に滞在しました。梅雨の時期で、過ごしやすい季節でした。研修開始時には美しいアジサイの花が街中に咲いておりました。異なる文化を持つ研修員達との、生活を大変楽しみました。私達は、勉学を共にするだけでなく、料理を学び、食事を共にし、使用後は、共同キッチンの清掃をも共にしました。私達は、本当に素晴らしい友情を築くことが出来たと思います。

私生活においては、研修監理員の方に大変親身になってご支援いただきました。また、講師の皆様は、

私達研修員のために、全力を尽くして下さい、知識と支援を持って、私達を力づけて下さいました。この研修では、私の将来の手助けとなる沢山のことを教えてくださいました。チューターの皆様は、より良い解決策に向けて、前向きなエネルギーで私達の課題作成をご指導くださいました。

日本の皆様の親切なホスピタリティ、礼儀正しさ、時間の正確さ、規律を守る姿を忘れることは決してありません。敬意を表します。研修に関われた皆様のご親切な奉仕、私達と共に過ごした時間、構築した素晴らしい友情に心からの御礼を申し上げます。これらは、私達にとって、自国での将来進むべき道を計画する手助けになると確信しております。本当に有難うございました。🍵



国際研修参加者と（中央が筆者、左から2人目が高亜男氏）



研修の成果を報告する筆者



亀田和彦先生を偲んで

－結核勉強会での学び－

亀田 和彦 先生

元（財）結核予防会大阪府支部結核研究所顧問
平成30年4月3日逝去 享年89歳

文：元大阪府岸和田保健所 地域保健課長

吉田 留美（保健師）

「私は、昭和29年から31年に結核研究所で岩崎先生に徹底して結核学の基礎を学び、大阪へ戻り、昭和36年に本格的な結核専門医として過ごそうと、住み慣れた大阪を去って再び東京へ13年間。さらに、昭和49年より大阪の結核を何とか良くしようと大阪に戻り、以後平成20年（80歳）まで結核一本で過ごした人生であった。」（『私の人生』－亀田和彦著より抜粋）

亀田先生の業績

先生の業績については、平成16年に「秩父宮妃記念結核予防事業功労賞」を受賞された時の人物紹介を原文のまま掲載します。

「臨床病理学的研究を基礎として全国に先駆けて結核の短期治療を推進、その普及に尽力し、全国の結核治療の平準化に果たした功績は大きい。

また近年、わが国でも実施されているDOTS事業について、現在のものとは違いはあるものの、結核研究所附属療養所及び大阪府立羽曳野病院において、患者の治療からの脱落防止策を30年前から実施してきたことは、賞賛に値するものである。

一方、結核対策を進めるうえで保健師の教育の重要性を感じ、20年にわたり毎月保健師のための結核勉強会を続けたこと。30年にわたり結核診査委員（長）として結核の適正医療、患者管理の指導に当たったこと。さらに医師、保健師のみならず、看護師、臨床検査技師、放射線技師、薬剤師会、教育委員会、公衆衛生協会、結核予防婦人会、一般市民、老人施設など、あらゆる部門に対し、主として結核特別推進対策の一員として出向き、平成15年までに北海道から沖縄までの全国の都道府県すべてにおいて講演し、結核の教育、啓発活動に努めるなど、その活動、実績、成果は数えきれ

ないものがある」

（結核予防会発行「複十字」296号、平成16年3月号）

亀田先生と結核勉強会

大阪に戻られた先生は、大阪府立羽曳野病院（現大阪はびきの医療センター）で勤務する一方で、大阪府衛生部を兼務され、大阪府の結核対策を一手に引き受け、その指導と実践に全力を傾けられました。

大阪府の保健所保健師（政令市を含む）で、40歳代以降の保健師の多くは、亀田先生と言えば、「結核勉強会」（以降、「勉強会」と記載）と答えます。

東京で根を下ろすつもりであった先生が、再び大阪に戻られたのは結核研究所の岩崎先生の「何故大阪の結核はこんなに悪いのでしょうか。大阪へ戻って頑張ってください。応援しますから。まず保健婦（師）を教育してください。大切なことを何回も何回も繰り返すことです」という言葉がきっかけだったと聞いています。

「勉強会」が始まるには、人の出会いのちょっとした奇跡（？）がありました。

一つ目の奇跡は、結核研究所における昭和48年の「保健婦短期研修」で先生の「結核の治療」を受講した大阪府の二人の先輩保健師が、ひょんなことから時間外に先生の興味深い結核の話聞く機会が持てたこと。感動的な研修を終え、大阪の保健師にこの知識を何とか伝達しなければと思いを強くしたこと。

二つ目の奇跡は、翌年49年に先生が大阪の人になったこと。この奇跡を先輩保健師が見逃すはずもなく、昭和51年2月から「勉強会」がスタートしました。

「勉強会」は先生の熱意（当然、ボランティア）と世話役の先輩保健師の働きにより、大阪府保健所保健

師を育てる場となりました。

毎月1回、第一土曜日の午後2時から4時、大阪府庁職員会館で、時間厳守、私語厳禁、可能な限り続けて参加することを条件として、「一人が百歩前進するよりも百人が一步ずつ前進する」ことを願って開催されていました。本当に厳しい勉強会で、遅刻した人は部屋の隅で立たされた?というような話も聞いています。私は昭和54年の新規採用保健師で、運営が軌道に乗ってからの参加であったため、それほど厳しいという思いは持ちませんでした。とりあえず、よく「君はどう思う?」「君が患者だったらどうしたい?」と質問をされました。しどろもどろで返答をしていましたが、一生懸命考えて答えれば、先生は決して否定をせず、正しい方向に導けるように講義を進めていかれました。

私が参加を始めた昭和54年当時、一人の保健師が100人前後の結核患者さんを担当していたので、「勉強会」に行くときには多くの疑問や不安をもって参加しました。「勉強会」での先生と言えば、レポート用紙にぎっしりとその日の講義内容が記載されている原稿をポケットから取り出され話が始まります。私たちへの2時間の講義に、毎回先生は多くの時間を費やしてくださっていました。そのおかげで、私はいつも「次にあの患者さんに会った時には、こんな風に説明してあげよう」とウキウキした気持ちでした。

また、「勉強会」は、一方的な講義だけでなく、日ごろの保健師活動の中からまとめをし、発表するという形式で進められることが多く、まとめ方や発表の仕方、準備の進め方等も併せてご指導いただきました。

亀田語録

「勉強会」で先生がよく話されていた言葉を書き表すと、

- ・「医師をえらい人と過大評価せず、パラメディカルではなくコメディカルの意識をもって、保健師はどうあるべきかを考えよう」
- ・「人は己の知るもののみ見る。知らざる者は見ても見えざるなり。しっかり勉強しよう」
- ・「患者さんは、患者としての役割と、社会人としての役割を持っていることを忘れてはいけない」
- ・「患者は保健師を選べないからこそ、しっかり正しい知識をもって、責任ある支援をすることが必要」
- ・「患者が治療に協力的でないと言っても何も解決しない。支援者の熱意が足りないことに気付く必要がある」

亀田先生からの学び

「勉強会」は結核の知識を学習するための場でしたが、参加常連保健師は、必ず「保健師としてのあるべき姿を学んだ」「人としての学びの場であった」と話します。結核対策に関する仕事だけでなく、自信をもって保健師の仕事ができる（できた）と言えることは、とても嬉しいことです。

先生の手弁当での「勉強会」は単なる知識を得る場だけでなく、人としての生き方へも影響を与える、いわゆる「人を育てる塾」であったと感じています。

私は、そこでの学びに従い活動することで、平成29年5月に「秩父宮妃記念結核予防保健看護功労賞」をいただくことができ、本当に感謝の一語に尽きます。

昨年の秋、先生は「保健婦の結核勉強会」として小冊子を作ってくださいました。先生と私たちの協力のまとめです。その出版を記念する食事会を開催し、先生に「感謝状」をお渡ししました。「僕は、幸せ者だよ」と、とても嬉しそうに笑っておられたお顔が今も目に浮かびます。

亀田先生、長い間本当にありがとうございました。



「保健婦の結核勉強会」出版記念の食事会にて（前列左から2人目、筆者）

赤い靴ひもの会

(がん体験者山行サポートの会)

公益財団法人石川県成人病予防センター
参事 西田 耕造
(赤い靴ひもの会副代表・事務局長)



夜、T氏からの電話「“がん克服白山登山”が県の予算打ち切りでなくなる。自分達で復活できないものか？H氏・T氏も同じ思いだ」。

がん克服白山登山は1998年石川県が啓発活動としてがん患者が白山に登るプロジェクト。2003年まで5回の白山登山をしたが、財政難を理由に2003年で無くなった。参加したがん患者からは落胆の声と共に、「県に予算復活を！」と多くの声が寄せられた。

そんな中T氏からの電話、「自分達で復活させよう」との誘いに私自身その思いが希薄であったことを恥じた。

T氏・H氏・M氏をはじめ、がん克服白山登山を通じて一番感動したのはがん患者でなく実はサポートしたボランティアではなかったか？T氏の電話で発足した「赤い靴ひもの会」も早12年が経った。現在会員数64名のうちがん体験者24名で活動している。

4月から11月までは毎月1回の日帰り山行。8月には1泊2日の白山登山。入会をきっかけに登山を始め、今では百名山踏破を目指しているがん体験者の女性もいる。

しかし、志なかばで亡くなった仲間もいた。なかでも印象に残るY氏。享年39歳、肺がんの再発。彼が生前会報「黒ボコ」第5号に寄稿したもの。

12月末、妻と二人で取立山へ行って来ました。歩き始めてすぐ、咳が出てきた。僕がすぐに息が上がるのは片肺のせいです。・中略・。妻が後ろから「来てよかったね」と声を掛けてきた。僕は、そう思ってくれたことで来てよかったと思う。ラッセルの役を妻に代わってもらう為、先を行ってもらいその足跡を僕がたどる。やっと登山口に着いた。2時間半かかった。時計はもう12時を過ぎている。僕は大きく落胆した。山頂から見る白山を期待して登ったのに、登山口までとは・・やっと登った先が健常者のスタート地点。僕のような体験者はスタート地点に立つことが精一杯・・本当にかかりました。情けなくも思った。が、しかたがない。今できる行動の範囲内で喜びや感動を見つけ

出し、体験することが僕の山登り。頂上に登らなくたっていい。他の人と比べることなんて無い。登山口までも「これが僕の山登り」なんだ。そう気を取り直して昼食をとり、1時に下山した。帰りの車で、「又来よう」と約束したので「僕はまだまだ闘える」と心の中でつぶやいた。

2007年赤い靴ひもの会ががん克服白山登山に参加。翌2008年10月25日逝去。「僕はまだまだ闘える」と彼が果たせなかった取立山に何度か会で登った。山頂に立った時、39歳の若さで旅立った彼の無念を思うと言葉を失う。

また、会へは色々な動機での入会がある。11歳の息子が脳腫瘍になり落胆ばかりしていられないと入会し、今では会の登山が一番の楽しみと言っている彼女が会報に次の文を寄せた。『私の好きな歌♪風は吹くのさ どんなどこでも 追い風向かい風 いろいろ吹くさ♪この会との出会いは、私の人生に新しい風を吹き込んでくれました。「サポートする」なんて偉そうなことは言えませんが会の追い風になること、自分にできることがあれば全力でしていきたいと思っています。赤い靴ひも旋風を巻き起こしましょう！』

ばてた仲間ができれば、変わりにリュックを背負い、会話が楽しめるペースでゆっくり登る。こんな素敵な仲間達との次回の山行、「晴れますように」。

どんなに快晴でも、必ず雨具とヘッドライトは持参すること。☔



白山山頂

「結核に関する国連総会ハイレベル会合」に向けた記者ブリーフィング開催

結核予防会

国際部 菅本 鉄広

結核は世界最大の感染症ですが、薬剤耐性結核の拡大やその対策に係る資金不足等も懸念されることから、本年9月26日に初となる「結核に関する国連ハイレベル会合」がニューヨークで開催されました。この会合は世界各国の首脳レベルが結核の終息に向けた対策や投資における政治宣言によって、各国の結核対策を促進し、結核から人々の命を救うことが目的です。

これに先立ち8月30日、(特活)アフリカ日本協議会、(公財)日本国際交流センター・グローバルファンド日本委員会、(公財)結核予防会、(特活)ストップ結核パートナーシップ日本の5団体共催により、メディアに向けた記者ブリーフィングを開催しました。5名のパネリストから、ハイレベル会合準備に携わる外務省の立場、結核対策に携わる専門家の知見や課題、元結核患者の経験談などが発表されました。結核予防会からは結核研究所の加藤誠也所長が登壇し、若年層における外国人結核患者が最近増えていることに触れ、結核がまん延する国々から感染した状態で日本へ入国

したり、厳しい生活環境の影響で発症し感染が広がったりするケースがあると指摘しました。集まった記者からは多くの質問がなされ、ハイレベル会合への関心が高まっていることを実感しました。終盤に、2035年までに結核の流行を終息させるためには、結核患者の早期発見と、新しい診断法や治療におけるイノベーションが必要であることが強調され、盛況のうちに終わりました。🐼



記者に対し発表を行う加藤所長

★トピックス★

複十字シール運動大臣表敬訪問

9月10日(月)、結核予防会と全国結核予防婦人団体連絡協議会は厚生労働大臣表敬訪問を行い、宇都宮啓健康局長と面談し、運動への一層のご理解とご協力をお願いした。初めに、工藤理事長より日本の結核の低まん延化へ向けてはさらなる努力が必要であることを伝え、次いで、小林募金推進部長より複十字シール運動の趣旨と取り組み、木下婦人会長よ

り婦人会の活動状況についてそれぞれ報告し、あわせて、募金の新しい方法として寄付型自動販売機の全国への普及を進めていることなどを説明した。宇都宮局長からは結核予防の普及啓発活動への激励の言葉をいただき、最後に69回結核予防全国大会で採択された決議宣言文に要望書を添えて前川事業部長より提出した。🐼



結核予防全国大会での決議・宣言文を提出

グローバルフェスタ JAPAN 2018 「Action for all ～小さなことから変わる明日へ～」

9月29日、東京・お台場にて「グローバルフェスタ JAPAN 2018」が開催され、国際協力活動を行う政府機関、NGO、各国大使館、企業など200以上の団体が参加し、4万3千人の来場がありました。当初は29～30日の2日間の開催予定でしたが、台風の影響で中止となり29日のみとなりました。

結核予防会はブースを出展し、結核の現状や国際協

力活動について紹介し、普及啓発活動を行いました。来場者の多くは結核について関心を示され、決して過去の病気ではないこと、世界中で深刻な状況にあることに驚き、弊会の活動に興味を持っていただきました。

お足元の悪い中、ブースにお立ち寄りいただいた皆様、ありがとうございました。🐼

(国際部松枝)



地域創生ビジネス交流会2018に出展 10月18日(木)、TKPガーデンシティ(東京・品川)

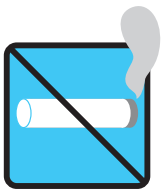
地域創生ビジネス交流会2018(第一生命保険主催)に結核予防会(事業部・募金推進部)から出展した。オープニングセレモニーでは、小池百合子都知事が挨拶に立ち、立錫の余地もない大きな会場からはスマホのシャッター音が続いた。展示企業約150社、来場数3,000社の交流会には、建設・製造・小売・情報通信など15の業種が集まり、情報交換や商談など活発に行われた。本会ブースには複十字シール各種、シールぼうや、パンフレット「結核の常識」などを置き、結核予防の普及啓発とシール運動のPRに努めた。

結核に興味を持って資材を手にする参加者もいたが、基本的にこういった交流会は、各企業とも自社製品の認知度を上げ、売り上げにつなげることを目的に参加する。そういう種類の材料を持つ本会収益部門が出展していたら、その先の展開もあったのではないかと

感じた。本会を訪れた会社は、印刷、ノベルティ製造、飲食、情報システムが主なところで、印刷やノベルティ業者は本会のパンフ、複十字シール運動の啓発グッズを、飲食は会議へのケータリングサービス、情報システムは顧客管理などを目的としたセールスであった。🐼

(事業部佐藤)





タバコパッケージの健康警告を画像による国際標準に！

2018年9月18日（火）に、日本禁煙学会理事長作田学氏、同理事宮崎恭一氏、タバコ問題情報センター代表理事渡辺文学氏が、財務大臣に宛てて要望書を提出した（写真）。2016年1月15日に「タバコパッケージの健康警告表示についての要望書」を提出していたが（複十字No.367既報）、その後進展を見ていなかったため再度の提出となった。



写真 小坂田たばこ事業室長に要望書を手渡す作田理事長

今回は、健康増進法の改正が審議中でその動向を財務省が見守っていたことと、パッケージについては審議先送りになったことなどから進展がなかったが、財務省として検討は続いているとのことであった。

禁煙学会側からは、JTのテレビCMについて、酒類のCMでは未成年や妊娠・授乳中飲酒を抑制する表示があるが、たばこについてはその警告表示が一切されていないとの問題提起がなされた。FCTC（たばこ規制枠組条約）違反であるとのこの指摘に対しては、表現の自由というのが財務省側の見解であった。

その後厚生労働省の記者クラブに場所を移して記者発表を行い、日本がたばこ対策に関して世界に遅れているということをアピールした。

現在、厚生労働省ではたばこの健康影響評価専門委員会が開かれており、喫煙所の設置要件について検討されているが、部屋の仕様等を省令で周知するのはまだ先になりそうである。いずれにしても2020年4月1日には改正法が施行されるので、工事期間を考慮するとそれほど先延ばしにすることはできないだろう。

10月10日には、財務省がたばこの健康警告表示について現状の30%以上から50%以上に拡大する検討を始めたというニュースもあった。オリンピックに向けてよい兆しとなることを期待したい。

10月1～6日にジュネーブで開かれていたCOP8（WHOのFCTC締約国会議）では148の締約国が集まり、1200名の国連機関、他の政府間組織、市民社会の代表者が参加した。そこでは、たばこ産業の商業的およびその他の既得権益から保護するために、条約締約国に要求するFCTC第5.3条に準拠した公衆衛生政策におけるたばこ産業によるさらなる干渉を防止するための新しい戦略が採択された。☺ （普及広報課）

要望内容

- ・パッケージ上の健康警告表示をFCTCのガイドラインに合わせ50%以上にすること。
- ・国際標準である画像による警告とすること。
- ・銘柄等を記載しないプレーンパッケージとすること。
- ・現在の警告文中の肺気腫をCOPD（慢性閉塞性肺疾患）に改めること。

FCTC第8回締結国会議決議

各国はWHOのレポートに留意し、加熱式タバコなど新型タバコあるいは新たに出現しているタバコを国内法に沿って取り締まること。

- ・新型タバコを新たに始めることを防ぐ。
- ・WHO FCTC第8条に沿って人々がこれらの新型タバコから受動喫煙を浴びないように、受動喫煙防止法を適用する。
- ・新型タバコによる健康被害を防ぐ。
- ・WHO FCTC第13条に従い、新型タバコの広告、販売促進、あるいはスポンサーしないこと。
- ・WHO FCTC第9条、10条に沿い新型タバコの中身をあきらかにさせ、規制する。
- ・WHO FCTC第5条3項に沿いタバコ産業の利益からタバコ規制の制作と活動を守る。他

（日本禁煙学会 <http://www.jstc.or.jp/> から引用）

読み終わった本やDVD・CD等で複十字シール募金にご協力いただけます！

読み終わった本、DVD、音楽CD、ゲームソフト、ゲーム機等を、無料集荷にてお送りいただくことで、買取金額を複十字シール募金としてご寄附いただけます。

ブックオフオンライン株式会社ボランティア宅本便のサービスを利用してあります。

結核予防会ホームページ (<http://www.jatahq.org/headquarters/seal/cooperate.html#furuhoon>) よりお申込みいただけます。



結核予防会 募金 (「複十字シール募金」の頁で「さまざまな募金形態」の頁を選択下さい)

問い合わせ：結核予防会募金推進部 TEL 03-3292-9287

寄付型自動販売機設置にご協力くださった方々

(敬称略)

エイチ・ピー・エス、山口県予防保健協会、なのみ一校会、ジョイバルなかま庭球場、クローバーホーム、瀬戸内町地域女性団体連絡協議会、福岡県結核予防会、神奈川県結核予防会、佐賀県地域婦人連絡協議会、長野県健康づくり事業団、大阪府結核予防会大阪病院、日本ロール製造、高島工務店、テレホンリース東京営業所、マイクリニック大久保、NBパークキング

多額のご寄附をくださった方々

(指定寄附等) (敬称略)

早坂和正 (複十字病院)

(複十字シール募金) (敬称略)

滋賀県 — (団体) 米原市近江老人クラブ連合会、愛荘町職員互助会

京都府 — (団体) 大智寺、英興、福岡医院、京都府歯科医師会

(個人) 上辻治、山田文諒、近藤由紀男、荒井龍也、加藤克二、奥田桂子、濱島好男、横山蓉子、前川清一郎、山本裕、有馬頼底、山口務、田淵利子、菱田多賀志、荻野勉、奥本恵治、井上正治

大阪府 — (団体) 松野英親税理士事務所、野田家商会計士事務所、樟蔭学園、神慈秀明会神崎支部、飯田後二法律事務所、あんどろ眼科クリニック、渡辺病院、大阪公衆衛生協会 事務局、岸和田交通、前久保クリニック、セイブ化成、日本電化工業所、丸昌、彩法律事務所、府身協東大阪障害者住宅支援センター菜の花、大京システム開発、宮前医院、藤田胃腸科病院、キムラリバーサイドデンタルクリニック、赤井内科・泌尿器科クリニック、福村タイヤ商会、北原医院、津田診療所、鶴満寺、牧病院、ボルカノ、中川歯科、共立病院、ツル薬局、いなだ訪問クリニック、啓生病院、平尾&パートナーズ、メンデル、大阪本町法律事務所、全国公益法人協会関西支部、特別養護老人ホーム錦織荘、大阪狭山博悠会陽だまりの丘、恵生会、上田起業、シヅカ、武田正徳税理士事務所、泉本医院、栗東寺、光テレホニイ、ヒューマニティー、クリーンケミカル、啓仁会咲花病院、ホームヘルプサービスまなか、コガチ金属工業、福祉ネット大和川、正幸会病院、溝口医院、さくらクリニック、市

丸内科、大丸銀螺製作所、東邦インターナショナル、りんでん幼稚園、苗加病院、向陽薬局、本徳寺、大川和俊税理士事務所、関西ボスティング、月江寺、石川特殊特急製本、グループホームアポロ池田、加輪税理士事務所、コヤマカンパニー、大豊化学、訪問看護ステーション鶴見橋、知恵の和苑介護老人保健施設、圓光寺、山文電気、紀伊産業、相互工業、伴医院、全国共済農業協同組合連合会大阪本部、東山産婦人科・小児科、丸尾、祐吉診療所、ジャパンライフ、わだ内科整形外科、吉祥院、大竹事務所、エルアンドエル、日炉工業、福田刃物、ファーマシーオカムラ薬局とさわ台店、ばん呼吸器内科クリニック、ファーマシーオカムラ薬局光風台店、杉本医院、三協国際特許事務所、加貫ローラ製作所、オフィス後藤田、前田商店、廣井皮膚科、オークボ、山口整形外科、ビデオエイベックス、森井塗装店、住吉大社、辰巳会計事務所、秋岡・西代医院、光陽保育園、緑風会病院

(個人) 吾郷泰廣、金井史、大村屋、平井治徳、吉田忠春、菱沼繁道、木谷和男、下瀬雅士、増田國次、西田智一、相原芸術、窪田純子、吉田哲郎、山名和枝、星川智子、黒田美子、大森布実子、岩田吉一、渡部ヒサ、久保田金次郎、横山正博、大本昭子、札場次郎、南尾繁子、中川修、白土武裕、大平政義、三好隆夫、米田明正、勝喜久、田口鐵男、藤野正勝、南順吉、松下隆信、中本好子、米島泰三、桑島忠津子、辻義則、井上英隆、久保しおり、片本皖也、三浦環子、木村元士、大島至郎、山本雅弘、藤原良江、中道昇、谷口学、友國照子、南桂子、濱田光博、藤井和男、河面孝子、内藤道夫、平出幸雄、平岡龍人、熊登裕久、長尾尚子、木村文雄、赤田和也、山戸康司、盛田利郎、中野真雅、小早川清、坂本宗嗣、赤井マリ子、山口修、小野紀子、村上正光、古川弘成、脇田治重、西田邦輔、山根孝子、木南康昭、浅野英雄、河合憲一、辻川豊、鈴木豊栄、木下芳明、大崎正博、明石恵実、中谷廣一、池田典子、北口隆広、大槻隆一、中村裕之、橋衣代、角田勇雄、窪田収、藤原章司、伊庭紀美子、前田秀夫、定光博文、河村信幸、橋本祐子、水野史郎、田中正子、橋本妙子、大関信義、渡部安晴、関根清寿、山本忍、豊島邦光、石原福市、小澤昌治、丸岡幸一、上原洋充、岩下秀夫、飯田順雅、高橋勝、西川昌廣・節子、北條秀樹、飯尾明郎、平井綾子、中村好一、伊坂泰治、西川正一、佐藤壽、乾慶子、島西チカエ、山川英治郎、小西信子、久徳武久、野村明雄、下正行、名和茂、植田嘉明、入船盛弘、上田慶一、坂出生久子、後藤和彦、稲田和子、山下房子、杉田修、

丸高三都子、平岡澄、前田一美、梁川健弘、矢追正典、越智宏暢、井合昌弘、岡本高司、米虫利津子、金杉加代、小川豊邦、山本洋介、岩本進、梅木英二、波多野吉洋、松下朱実、嶋田誠、藤田修一、字賀一郎、岡野幸義、橋本京子、石田泰三、斎藤明彦、河面孝、小倉剛、芝原英司、小泉葉里子、三好千代子、津村茂、武内顕、四宮章夫、露口泉夫、原一仁、都築武保、小高将根、村田清三、廣岡政明、中村孝枝、大塚隆英、森本淳祐、八田光子、阪口恵蔵、井上トキ子、永田清文、森口宏、中村孝義、斎藤弘弘、伊藤栄次、田中英二、和田泰彦、橋本重夫、伏見寛寛、尹景徹、東昭和

本部 (平成29年度ご寄附分) — (団体) 日冠日本サービスセンター、成美堂出版、サンワ、三共社、丸西平友、ワールド、浅井商事、ベルセレーージュ、桜電社、ダイニ、第一製版、金地院、円明寺、松林院、真勝院、天王寺、あかし歯科医院、小野歯科医院、原歯科クリニック、總持寺、東京ユナイテッド・ペンテコステ教会、極楽寺、宝生寺、梅津クリニック、延命寺、淨国寺、常楽寺、厚木玄林堂、岩崎倉庫、學風会、新和設備、台東サービス、タカムラ、大信梱包システム、ダイヤモンド・ビーアール・センター、電子制御国際、ネクサス、深田キデア、金子運送、神田製作所、サンコスモ、ハウセット、ベエックス、開真産業、赤光会斎藤病院、昭和女子大学中上部保健部、新新会多摩あおば病院、聖明福祉協会聖明園曙荘、千代田清瀬営業所、ティ・オー・オー、東京光の家、阪和、福栄会、有機合成薬品工業、ユタカ、ギャルドエウ・エス・ビー、石油連盟、北村信正商店、ニナファームジャパン、多賀電気、成友会、武美会、ザ・クリーム・オブ・ザ・クロップ・アンド・カンパニー、木村産業、中島不動産、仁寿会荘病院、丸善超硬、天誠会、近畿労働金庫有田支店、ティー設計工房、城戸鍍金工業所、産経商事、みその商事、エルフォー企画、清和企業、ドクターセラム、園田学園女子大学庶務課

(個人) ヒロセチエコ、オカダヒロキチ、河津秋敏、松岡浩、ハラダコウキ、コウダエツコ、牛尾正孝、ホソノイチロウ、白倉徹哉、岡宮育世、山下秀光、鈴木節美、三谷省造、宇田京子、梅井秀明、鎌倉順子、永田啓子、小山泉、水野正裕、伊藤さだ、マツシマタイジロウ、丸山輝久、古屋文男、岡岡壽博、笠井俊彦、工藤翔二、大橋京子、中島達見、松田正己、高瀬淳、小林賢治、高橋真千子、田村淑子、高橋正光、今井均、北川彌生、田中和枝、伊東春海、斎藤興二、佐藤吉信、岡田耕輔、中野宰至、山本喜則、渡辺政和、北澤竜二、大西君男

平成30年11月15日 発行
 複十字 2018年383号
 編集兼発行人 前川 眞悟
 発行所 公益財団法人結核予防会
 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-3-12
 電話 03(3292)9211(代)
 印刷所 株式会社マルニ
 〒753-0037 山口県山口市道祖町7-13
 電話 083(925)1111(代)

結核予防会ホームページ
 URL <http://www.jatahq.org/>

<編集後記>他業務に追われ、10月24日に全ての入稿を終えました。この編集後記が載っているということは無事に校了迎えられたようで良かったです・・・。(ゆ)

本誌は皆様からお寄せいただいた複十字シール募金の益金により作られています。

◆複十字シール運動 — みんなの力で目指す、結核・肺がんのない社会

複十字シール運動は、結核や肺がんなど、胸の病気をなくすため100年近く続いている世界共通の募金活動です。複十字シールを通じて集められた益金は、研究、健診、普及活動、国際協力事業などの推進に大きく役立っています。皆様のあたたかいご協力を、心よりお願いいたします。

募金方法やお問い合わせ：募金推進部

またはフリーダイヤル：0120-416864 (平日9:00~17:00)

平成30年度複十字シール



✳2018結核予防週間レポート✳

今年も9月24日から30日までの結核予防週間を中心に、「全国一斉複十字シール運動キャンペーン」が実施され、全国各支部で工夫を凝らした活動が行われました。本誌P4～7に引き続き、活動を紹介します。

北海道



札幌市保健所と共催で婦人会の協力を得て、夜間無料結核検診（問診、血圧、胸部レントゲン）等を実施し、札幌市内（北区、中央区）、厚岸町、白糠町で普及啓発資材を配布した。

青森



青森市内のショッピングセンター3会場で、普及啓発キャンペーンを実施。シールぼうやの着ぐるみが3会場を回り、大いに会場を盛り上げた。

岩手



当支部主催「よぼういぐく協会健康フェスタ2018」にて広報資材を配布し、募金を呼びかけた。ポスターを設置し、多くの方に結核予防の啓発活動を行った。

宮城



JR仙台駅西口ペDESTリアンデッキにて、県婦人会との共催で結核の常識・ポケットティッシュ等の広報資材を配布しながら結核予防や複十字シール運動への協力を呼びかけた。

秋田



秋田駅東西連絡自由通路「ぼぼろ〜ど」・仲小路にて婦人会の協力を得て広報資材等を配布。のぼりやパネルを設置して複十字シール運動への募金を呼びかけた。「んだッチ」と一緒に記念撮影を行い、好評だった。

茨城



県・保健所・県健康をまもる女性団体連絡会とともに県内3カ所でパンフレット等を配布する街頭キャンペーンを実施。結核予防を呼びかけた。

栃木



宇都宮市内ショッピングモールベルモールにて普及啓発資材やバルーンアート、シールぼうやの風船を配布し、パンチングボールの設置、結核に関するパネルの展示を行った。

群馬



群馬会館にて、来場者に結核の現状や予防法について説明し、リーフレット・小型シール・ハガキ、ボールペンなどを配布して、普及啓発活動を行った。多くの方に受け取っていただけた。



平成30年度の複十字シール運動 広報資材について



複十字シール運動を多くの方に知っていただくために、毎年イメージキャラクターを使った広報資材を製作しています。

今年はシールぼうや、シールちゃんをあしらったボールペン、メモ帳、カットパン、ストラップ、Tシャツの5点で、結核予防会本部及び支部（一部）での広報活動に使用されます。

その他、各支部で製作されるオリジナルの資材などもあります。お手元に届きました際は、複十字シール運動へのご協力をお願い申し上げます。

【お問い合わせ】 結核予防会募金推進部 TEL：03-3292-9287



ボールペン



カットパン



Tシャツ



メモ帳



ストラップ



【近刊】
感染症法における
結核対策
平成30年改訂版

ISBN978-4-87451-312-5
予価：本体4,500円+税

結核予防会の本



結核の統計2018

ISBN978-4-87451-311-8
定価：本体3,000円+税



保健師・看護師の
結核展望111号

定価：本体1,900円+税

お問い合わせ先：
出版調査課 TEL03-3292-9289

